

公益財団法人 がんの子どもを守る会  
**2016年度事業報告書**

2016年4月1日～2017年3月31日

CCAJ ANNUAL REPORT  
Apr.01,2016～ Mar.31,2017



公益財団法人 がんの子どもを守る会

Children's Cancer Association of Japan

〒111-0053 東京都台東区浅草橋1-3-12

電話:03-5825-6311 (代表)

03-5825-6312 (相談)

<http://www.ccaj-found.or.jp/>

がんの子どもを守る会

検索



CCAJ

公益財団法人 がんの子どもを守る会

Children's Cancer Association of Japan

## CONTENTS

 理事長あいさつ	1
 組織概要	2
 会の歴史	4
 2016年度収支報告	6
 2016年度の事業概況	
①療養援助事業	10
②相談事業	11
③治療研究事業	16
④総合支援施設運営事業	17
⑤小児がん・難病対策	18
⑥支部活動	19
⑦広報・啓発・募金活動 等	21
⑧国際活動	25
⑨奨学金事業	25
⑩ボランティアコーディネート・研修会	26
⑪調査研究協力	26
⑫2016年度年次大会開催	27
⑬企業・団体からのご協力	27
 寄付・募金者一覧	29

### がんの子どもを守る会とは

1968年10月に小児がんで子どもを亡くした親たちによって、小児がんが治る病気になってほしい、また小児がんの子どもを持つ親を支援しようという趣旨のもと設立され、子どもの難病である小児がんに関する知識の普及、相談、調査・研究、支援、宿泊施設の運営、その他の事業を行い、社会福祉及び国民保健の向上に寄与することを目的としています。小児がんは医学の進歩に伴って「不治の病」から「治る病気」になりつつあります。しかし、未だ病死順位の1位であること、たとえ治療を終えても小児がんの患児とその家族はさまざまな問題を抱えているのが実情です。当会は患児・家族が直面している困難や悩みを少しでも軽減すべく、多くの方々の支援のもとに活動をしています。

### 理事長あいさつ

公益財団法人がんの子どもを守る会  
理事長 山下 公輔



新たな事業報告書の発行に当たり、2016年度の振り返りと、新年度の考え方などについて、一言述べさせていただきます。

公益財団法人がんの子どもを守る会は、「小児がんを治る病気にしたい」、「小児がんのために、自分たちと同じ苦しみを繰り返す家族のいない世の中をつくりたい」という、親たちの願いの下で1968年（昭和43年）に設立されました。爾来、小児がんの患児・家族への様々な支援を中心に、設立時の願いの実現のために幅広く事業を展開し現在に至っており、来年には設立50年の節目を迎えます。

数年前より、経済的に安定的とはいえず難しかった運営状況を改善すべく、運営方針・体制の改善・強化の努力を続けて参りましたが、その成果が実るとともに、篤志の方々からの大きなご寄付という支えもあり、一昨年度に引き続き昨年度も、年度単位の事業収支の正常化をほぼ達成することができました。これも、事務局職員や各支部で会の活動を支え下さる皆様の努力、そして外部の多くの方々ご支援の賜物と心より感謝しております。このように、会の使命実現の支えである経済的安定性が確保されつつあるなかで、会の歴史にとって大きな節目である設立50年の年を迎える準備が出来ることを大変喜ばしく思っております。

冒頭に書きました当会の使命のうち「小児がんを治る病気にしたい」という点については、設立当時はまさに不治の病であった小児がんも、この50年間の医学の進歩により、今や「治る病気」になりつつあります。勿論、未だ100%治るとは言えませんが、級数的速さで進歩する現代医学を見ると、いつかは本当に「小児がんで亡くなる子どものいない世の中」が実現されるのではないかと期待されます。その一方で、小児がんの発症を予防・予知する方法は未だ無く、また「治る」ためには侵襲性の強い治療が必要であり、「小児がんにより苦しむ患児・家族のいない世の中」の実現は当面難しく、当会の活動も、今後も長きに亘って続けていかなければならないと考えております。

このような環境の下、来年には会の設立50年の節目を迎えます。本年度は来年の50年記念の年に向けた準備の年であるとともに、更に長い目で当会の将来のあり方や事業の方向性等を再点検する、次の50年を念頭に置いた準備の年とも位置付けたいと考えます。その上で、具体的な事業施策としては、これまで長年に亘って続けて参りました、「小児がん家族に対する相談事業」、「小児がん家族への療養費援助事業」、「小児がんに関する治療研究助成事業」、「小児がんに関する社会の理解の向上を目指した啓発活動」そして「難病の子どもを持つ家族のための総合支援施設運営事業」などを核と

した事業を着実に展開して参ります。その中で、小児がんが「治る病気」になってきたという嬉しい変化に伴い増えていく、小児がん経験者の支援、特に長期フォローアップに関する諸課題や教育・就労等の問題については、大変重要でありながら必要な体制整備や具体策の実施が遅れており、長期的な視野に立ち新たな事業を含めこの分野の活動に力を入れていきたいと考えております。

このような考え方で2017年度も諸事業を着実に進めて参りますが、その中で大きな変革として「難病の子どもを持つ家族のための総合支援施設運営事業」について触れさせていただきます。既にホームページ等でご案内しておりますように、この事業の中核であるアフラックペアレンツハウスの運営体制が新年度から大きく変わっています。アフラックペアレンツハウスは、2001年に亀戸のハウスがアフラック様のご寄付により開設され、その後同様な施設を浅草橋と大阪に開設し、アフラック様の継続的なご支援の下で運営を続けてきております。これらの三施設は事業の呼称が「総合支援施設事業」であることからもお分かりのように、宿泊機能が大きな部分を占めはしますが、それだけでなく小児がんの患児・家族を支援するための相談機能や情報発信機能を持った、総合的な支援施設であります。その中で東京の二施設については、開設当初の経緯からこれまで「宿泊部門」の運営を外部の専門団体に委託して参りました。しかし、このたび受託者側の事情により委託契約を解除することとなり、本年4月1日より大阪のペアレンツハウスと同様に、当会が宿泊部門も含め全面的に直営で運営することになりました。担当の職員諸君には、運営体制の変更・引き継ぎ、更にはこれを機にこれまで以上に「総合支援」の機能を高めるための諸準備に、多くの負担がかかりましたが、お陰様で宿泊部門責任者の新規採用も順調に進み、既に4月1日より新体制の下で運営が始まっています。今後は、小児がんや難病の子どもや家族のための、当会の活動と一体となった総合支援施設として、これまで以上に充実した運営を目指して参ります。またこれを機に、施設内部の改修を行い、東京の二棟のうちの亀戸の機能を、従来からの患児・家族支援に加え、経験者への支援機能強化並びに小児がんや難病関連の団体を含むより幅広い利用者に活用していただける様に改良・拡充致します。そのため、短期的には工事により利用者の方々にご不便をおかけする時期も出ますが、2017年度末までには、より充実した機能を持つ施設・体制が整う予定となっております。

これらを含んだ、2017年度の事業計画は別途公表資料として開示しております。私を含め理事及び事務局職員一同、小児がん患児・家族への幅広い支援事業を持続的に推進するという当会の使命遂行に向け、誠心誠意努力をする所存であります。皆様におかれましては、この機会にぜひ事業計画並びに本事業報告書をご一読いただくとともに、当会の活動について一層のご理解とご支援を賜りますよう誠心からお願い申し上げます。

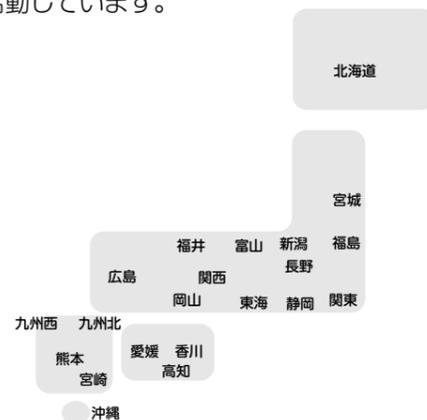
2017年6月1日

<b>名称</b>	公益財団法人 がんの子どもを守る会
<b>設立</b>	1968年10月31日
<b>設立趣旨</b>	当会は、1968年10月に小児がんで子どもを亡くした親たちによって、小児がんが治る病気になってほしい、また小児がんの子どもを持つ親を支援しようという趣旨のもとに設立されました。
<b>主務官庁</b>	内閣府
<b>主たる事務所</b>	浅草橋 住所：〒111-0053 東京都台東区浅草橋1-3-12 TEL：03-5825-6311(代表) FAX：03-5825-6316
<b>従たる事務所</b>	亀戸 住所：〒136-0071 東京都江東区亀戸6-24-4 TEL：03-3638-6551(代表) FAX：03-3638-6553 大阪 住所：〒541-0057 大阪府大阪市中央区北久宝寺町2-3-1 TEL：06-6263-1333(代表) FAX：06-6263-2229
<b>組織</b>	理事 11名(理事長1名、副理事長2名) 監事 2名 評議員 13名 職員 24名 普通会員 2,153名 賛助会員 290名(法人19社、個人271名)

**支部** 当会には全国に21の支部があります。各地域の会員ボランティアにより組織され、地元の医療関係者等の協力を得ながら、各地のニーズにあわせた相談会や交流会などを開催し、患児・家族と医療関係者のコミュニケーションを深めるとともに、患児・家族のよりよい療養生活の実現を目指して活動しています。

### 21支部

北海道、宮城、福島、長野、新潟、福井、富山、関東、静岡、東海、関西、岡山、広島、香川、愛媛、高知、九州北、九州西、熊本、宮崎、沖縄



## 役員名簿

<b>理事長</b>	山下 公輔 親/元 PwC アドバイザリー合同会社 シニアアドバイザー
<b>副理事長</b>	細谷 亮太 聖路加国際病院 顧問/当会嘱託医 近藤 博子 親/元 当会ソーシャルワーカー
<b>理事</b>	橋都 浩平 株式会社ドリームインキュベータ 取締役(監査等委員) 元 東京大学医学部附属病院 小児外科 教授 松井 秀文 認定NPO法人ゴールドリボン・ネットワーク 理事長 元 アフラック 会長
	張 光陽 親/当会九州北支部 幹事 増子 孝徳 親/弁護士 坪田 起久恵 親/当会福井支部 代表幹事 森下 さふみ 親/当会関西支部 幹事、NPO法人日本クリニクラウン協会 理事 片岡 巖雄 親/株式会社スーパーホテル 常務執行役員 石川 幹雄 当会事務局長
<b>監事</b>	高橋 和子 親/当会九州北支部 幹事 三川 勝夫 親/三川会計事務所 代表
<b>評議員</b>	河 敬世 大阪府立母子保健総合医療センター 顧問 深澤 重幸 親/コトブキシーティング株式会社 代表取締役社長 元 聖路加国際病院 医療社会事業課 ソーシャルワーカー 西田 知佳子 埼玉県立小児医療センター 地域連携・相談支援センター ソーシャルワーカー 平野 朋美
	平澤 一郎 小児がん経験者/長岡こども医療・介護専門学校 教務主任 幸島 静枝 親/当会会員 稲田 浩子 佐賀県医療センター 好生館 小児科部長 中村 美智子 小児がん経験者 鈴木 中人 親/当会東海支部 代表幹事 隈部 俊宏 北里大学病院 脳神経外科 主任教授 田中 徹 親/当会会員 本橋 由紀 株式会社毎日新聞社 編集編成局 編集委員 三好 完治 親/当会会員
<b>療養援助委員会</b>	別所 文雄 元 杏林大学 医学部 小児科 星 順隆 元 東京慈恵会医科大学附属病院 輸血部 花田 良二 埼玉県立小児医療センター 副院長 黒田 達夫 慶應義塾大学 医学部 小児外科 教授 前田 美穂 日本医科大学付属病院 小児科 教授

柳澤 隆昭 東京慈恵会医科大学附属病院 脳神経外科 教授 小澤 美和 聖路加国際病院 小児科 医長
<b>調査研究委員会</b>
橋都 浩平 当会理事/株式会社ドリームインキュベータ 常勤監査役 元 東京大学医学部附属病院 小児外科 教授 細谷 亮太 当会副理事長/聖路加国際病院 顧問/当会嘱託医 星 順隆 元 東京慈恵会医科大学附属病院 輸血部 岩田 敬治 当会最高相談役 山下 公輔 当会理事長
<b>治療研究委員会</b>
山下 公輔 当会理事長 黒田 達夫 慶應義塾大学 医学部 小児外科 教授 小原 明 東邦大学医療センター大森病院 院長 小澤 美和 聖路加国際病院 小児科 医長 陳 基明 日本大学医学部附属板橋病院 小児科外来 医長 菱木 知郎 国立成育医療研究センター小児がんセンター腫瘍外科/ 国立がん研究センター中央病院 小児腫瘍外科 併任 丸 光恵 甲南女子大学 看護リハビリテーション学部 教授 (専門委員) 野崎 美和子 獨協医科大学 越谷病院 放射線科 教授 逸見 仁道 東邦大学 医学部 医学教育センター 客員講師 中澤 温子 東海大学 医学部 基盤診療学系病理診断学 准教授
<b>海外留学助成委員会</b>
河 敬世 大阪府立母子保健総合医療センター 顧問 / 当会評議員 岡村 純 国立病院機構九州がんセンター 臨床研究センター 顧問 小田 慈 岡山大学 名誉教授 特任教授 駒田 美弘 三重大学 学長 中畑 龍俊 京都大学 iPS細胞研究所 副所長 石川 幹雄 当会事務局長
<b>小児がん経験者・がん遺児奨学金制度選考委員会</b>
鎌田 薫 早稲田大学 総長 関谷 亜矢子 元 日本テレビアナウンサー/ 厚生労働省「がんに関する普及啓発懇談会」委員
檜山 英三 日本小児血液・がん学会 理事長 藤原 房子 元 日本経済新聞社編集委員 松井 秀文 認定NPO法人 ゴールドリボン・ネットワーク 理事長/ 当会理事
増子 孝徳 弁護士/当会理事
<b>名誉顧問</b>
日野原 重明 聖路加国際病院 名誉顧問 柳田 邦男 作家



# 会の歴史

1962	設立趣意書作成	1999	九州支部、北・西・南の3支部に分割 清瀬小児病院の敷地内にある「たけのこハウス」、東京都中央区にある「あかしハウス」を東京都衛生局より委託（2002年度まで受託）
1966	NHKカメラリポートで紹介	2000	「小児がん患児とその家族の支援に関するガイドライン」刊行 岩田理事長に藍綬褒章
1967	「がんの子供を助ける親の会」準備会	2001	「アフラックペアレンツハウス亀戸」が完成、事務所移転
1968	2.25 「親の会」設立総会 10.31 「財団法人 がんの子供を守る会」として設立許可 11.18 治療研究委員会発足 12.27 緊急医療費援助開始、第1号患者2名に援助金	2002	「がんの子どもの教育支援に関するガイドライン」刊行 愛知支部が東海支部となる 広島支部設立総会
1969	小児がん全国登録開始	2003	九州南支部が熊本支部となる 鹿児島支部設立総会 埼玉支部と東京支部HOPEが合併 関東支部となる
1970	関西支部設立総会 小児がん公費負担について厚生大臣に陳情	2004	福井支部設立総会 香川支部設立総会 沖縄支部設立総会 「アフラックペアレンツハウス浅草橋」が完成、亀戸より事務所移転
1971	陳情により、小児がん治療費の公費負担が実現	2006	小児がん経験者の支援と社会への啓発を目的としたゴールドリボン基金を設立 「小児がん経験者のためのガイドライン～よりよい生活をめざして～」刊行
1972	九州支部設立総会 北海道支部設立総会 療養費援助を一般と特別に区分し援助開始。特別療養費審査会発足	2007	ゴールドリボンウォーキング2007開催（東京） 富山支部設立総会
1973	映画企画委員会発足 専任ケースワーカー設置	2008	創立40周年記念事業がんと子どもと家族を支援する公開シンポジウム（千葉） 第1回小児がん経験者自立支援助成金
1974	48年度小児がん映画完成公開 静岡支部設立総会 全国登録委員会発足	2009	「アフラックペアレンツハウス大阪」が完成 高知支部設立総会
1975	愛知支部設立総会 49年度小児がん映画完成公開 埼玉支部設立総会 パンフレット「こどものがん」刊行	2010	「この子のためにできること 緩和ケアのガイドライン」刊行 福島支部設立総会
1976	特定公益増進法人の認定	2011	東日本大震災緊急療養援助実施
1978	本会に嘱託医を設置 創立10周年記念講演と映画の会	2012	公益財団法人移行認定 鹿児島支部が鹿児島・宮崎支部となる
1979	長野支部設立総会 創立10周年記念・国際児童がん国際シンポジウム	2013	「小児がん経験者及びがん遺児に対する奨学金給付事業」の認定 岩田最高相談役及び西村顧問に当会より特別功労賞を授与
1981	新潟支部設立総会	2014	奨学金事業「アフラック小児がん経験者・がん遺児奨学金制度」を開始 厚生労働省に「難病及び小児慢性特定疾病対策・小児がん対策の充足を求める請願書」を提出 文部科学省に「小児がん患児が切れ目なく教育を受けることができる教育整備の充足を求める請願書」を提出 「小児がん経験者のためのハンドブック」刊行 「小児がんの子どものきょうだいのきもち」刊行 鹿児島・宮崎支部が宮崎支部となる
1984	日本小児がん研究会発足	2015	第29回日本医学会総会2015関西 疾患啓発イベント「分かちあう気持ち、支えあう笑顔 小児がん医療の姿～いま そして これから～」開催 アフラックペアレンツハウス浅草橋10周年記念イベント開催 「小児がん 子育てでんわ相談室」開設
1985	第1回日本小児がん研究会（東京）（平成3年以降「日本小児がん学会」）	2016	当会、一般社団法人日本小児血液・がん学会及び特定非営利活動法人日本小児がん看護学会の連名で厚生労働省に対し「小児がん対策に関する要望書」を提出 「小児がんの子どものきょうだいたち」刊行
1986	竹中相談役・顧問に藍綬褒章		
1989	創立20周年記念・第2回小児がん国際シンポジウム		
1991	小冊子「がんとたたかう子とともに」刊行 宮城支部設立総会		
1993	愛媛支部設立総会 小児がん経験者の会「フェロー・トゥモロー（F.T）」結成		
1994	小冊子「子どものがん」、疾病別リーフレット刊行		
1995	宿泊施設「あかつきハウス」開設 岡山支部設立総会		
1996	東京支部HOPE設立総会 学習ボランティア研修会開始（モデル事業）		
1997	国際小児がん親の会連盟（ICCCPO）加入		
1998	創立30周年記念第30回SIOP国際小児がん学会親の会会議		



# 2016年度収支報告 (2016年4月1日～2017年3月31日)



## 正味財産増減計算書内訳表

(単位：円)

科目	公益目的事業	法人会計	内部取引	合計
<b>I 一般正味財産増減の部</b>				
<b>1. 経常増減の部</b>				
<b>(1) 経常収益</b>				
財産運用益	5,379,070			5,379,070
普通預金利息	5,142			5,142
定期預金利息	183,859			183,859
投資有価証券利息	5,190,069			5,190,069
受取寄付金	361,568,158	97,107,243		458,675,401
特定寄付金	6,071,030			6,071,030
一般寄付金	97,107,244	97,107,243		194,214,487
受取寄付金振替額	258,389,884			258,389,884
受取協賛金	2,500,000			2,500,000
コールドリボン協賛金	2,500,000			2,500,000
受取補助金等	10,032,410			10,032,410
受取補助金等振替額	10,032,410			10,032,410
受託料	968,000			968,000
調査研究受託料	968,000			968,000
受取利用料	5,087,200			5,087,200
施設利用料	4,593,500			4,593,500
リネン利用料	493,700			493,700
固定資産受贈益	681,000			681,000
雑収益	2,720,426			2,720,426
雑収益	2,720,426			2,720,426
経常収益計	388,936,264	97,107,243		486,043,507
<b>(2) 経常費用</b>				
事業費	374,221,276			374,221,276
人件費	77,060,966			77,060,966
法定福利費	9,630,179			9,630,179
給与	64,010,817			64,010,817
福利厚生費	93,570			93,570
退職給付費用	3,326,400			3,326,400
助成費	30,474,220			30,474,220
療養助成費	16,374,220			16,374,220
治療研究助成費	7,100,000			7,100,000
調査研究助成費	7,000,000			7,000,000
活動費	160,304,068			160,304,068
会議費	1,135,026			1,135,026
旅費交通費	12,882,584			12,882,584
通信運搬費	6,540,240			6,540,240
消耗品費	1,816,718			1,816,718
修繕費	38,647,903			38,647,903
印刷製本費	2,248,767			2,248,767
光熱水料費	10,727,123			10,727,123
保険料	1,278,744			1,278,744
諸謝金	1,375,896			1,375,896
業務委託費	38,966,441			38,966,441
広報費	3,060,117			3,060,117
支援費	2,107,356			2,107,356
図書資料費	367,511			367,511
保健衛生費	598,755			598,755
コールドリボン制作費	2,089,260			2,089,260
宿泊施設運営費	705,584			705,584
租税公課	9,428,900			9,428,900
リネン賃借料	336,494			336,494
事業協力費	673,199			673,199
会場費	2,939,964			2,939,964
雑費	2,023,662			2,023,662
保守料	12,774,756			12,774,756
リース料	2,169,387			2,169,387
植栽管理費	865,870			865,870
借地料	845,832			845,832
衛生管理費	3,507,786			3,507,786
消耗什器備品費	190,193			190,193
減価償却費	29,332,022			29,332,022
建物減価償却額	26,699,921			26,699,921
建物附属設備減価償却額	1,598,796			1,598,796

科目	公益目的事業	法人会計	内部取引	合計
ソフトウェア減価償却額	98,400			98,400
什器備品減価償却額	934,905			934,905
奨学金給付費	77,050,000			77,050,000
奨学金給付費	77,050,000			77,050,000
管理費		31,889,232		31,889,232
人件費		21,354,555		21,354,555
給与		16,393,420		16,393,420
法定福利費		2,725,511		2,725,511
福利厚生費		18,024		18,024
退職給付費用		2,217,600		2,217,600
活動費		9,848,966		9,848,966
会議費		84,959		84,959
旅費交通費		1,134,007		1,134,007
通信運搬費		917,551		917,551
消耗品費		238,115		238,115
修繕費		4,000		4,000
印刷製本費		1,336,643		1,336,643
図書資料費		48,444		48,444
保守料		604,248		604,248
リース料		2,328,681		2,328,681
支払報酬		2,030,400		2,030,400
租税公課		89,432		89,432
消耗什器備品費		12,706		12,706
雑費		1,019,780		1,019,780
減価償却費		685,711		685,711
ソフトウェア減価償却額		656,916		656,916
什器備品減価償却額		28,795		28,795
経常費用計	374,221,276	31,889,232		406,110,508
評価損益等調整前当期経常増減額	14,714,988	65,218,011	0	79,932,999
評価損益等計	0	0	0	0
当期経常増減額	14,714,988	65,218,011	0	79,932,999
<b>2. 経常外増減の部</b>				
<b>(1) 経常外収益</b>				
経常外収益計	0	0		0
<b>(2) 経常外費用</b>				
経常外費用計	0	0		0
当期経常外増減額	0	0		0
当期一般正味財産増減額	14,714,988	65,218,011	0	79,932,999
一般正味財産期首残高	628,419,108	△ 14,204,616	0	614,214,492
一般正味財産期末残高	643,134,096	51,013,395	0	694,147,491
<b>II 指定正味財産増減の部</b>				
受取補助金等	36,610,400			36,610,400
受取補助金	30,086,000			30,086,000
受取助成金	6,524,400			6,524,400
小児がん骨髄移植基金	6,000,000			6,000,000
助成金	524,400			524,400
受取寄付金	201,822,148			201,822,148
指定寄付金	201,822,148			201,822,148
三重ファミリールーム指定寄付金	11,231,000			11,231,000
施設運営指定寄付金	111,880,425			111,880,425
国際交流指定寄付金	1,300,000			1,300,000
がん遺児奨学金指定寄付金	77,410,723			77,410,723
特定資産評価損	2,703,910			2,703,910
一般正味財産への振替額	△ 268,422,294			△ 268,422,294
指定寄付金	△ 258,389,884			△ 258,389,884
受取助成金等	△ 10,032,410			△ 10,032,410
当期指定正味財産増減額	△ 32,693,656			△ 32,693,656
指定正味財産期首残高	2,138,051,646	0		2,138,051,646
指定正味財産期末残高	2,105,357,990	0		2,105,357,990
<b>III 正味財産期末残高</b>	2,748,492,086	51,013,395	0	2,799,505,481



正味財産増減計算書内訳表

(単位：円)

科目	一般会計	AFLACヘアレンツハウス 特別会計	三重ファミリールーム 特別会計	メイスイ財団 小児がん骨髄移植基金 特別会計	小児がん経験者・ がん遺児奨学金特別会計	合計
<b>I 一般正味財産増減の部</b>						
<b>1. 経常増減の部</b>						
(1) 経常収益						
財産運用益	5,375,983	810	214	88	1,975	5,379,070
普通預金利息	2,055	810	214	88	1,975	5,142
定期預金利息	183,859	0	0	0	0	183,859
投資有価証券利息	5,190,069	0	0	0	0	5,190,069
受取寄付金	201,585,517	168,448,161	11,231,000	0	77,410,723	458,675,401
特定寄付金	6,071,030	0	0	0	0	6,071,030
一般寄付金	194,214,487	0	0	0	0	194,214,487
受取寄付金振替額	1,300,000	168,448,161	11,231,000	0	77,410,723	258,389,884
受取協賛金	2,500,000	0	0	0	0	2,500,000
ゴールドリボン協賛金	2,500,000	0	0	0	0	2,500,000
受取補助金等	524,400	0	1,716,734	7,791,276	0	10,032,410
受取補助金等振替額	524,400	0	1,716,734	7,791,276	0	10,032,410
受託料	968,000	0	0	0	0	968,000
調査研究受託料	968,000	0	0	0	0	968,000
受取利用料	146,000	4,566,200	375,000	0	0	5,087,200
施設利用料	146,000	4,072,500	375,000	0	0	4,593,500
リネン利用料	0	493,700	0	0	0	493,700
固定資産受贈益	681,000	0	0	0	0	681,000
雑収益	2,719,728	698	0	0	0	2,720,426
雑収益	2,719,728	698	0	0	0	2,720,426
経常収益計	214,500,628	173,015,869	13,322,948	7,791,364	77,412,698	486,043,507
(2) 経常費用						
事業費	89,723,752	191,802,393	4,205,075	5,670,000	82,820,056	374,221,276
人件費	31,899,707	41,067,259	0	0	4,094,000	77,060,966
法定福利費	3,826,811	5,269,368	0	0	534,000	9,630,179
給与	24,731,496	35,719,321	0	0	3,560,000	64,010,817
福利厚生費	15,000	78,570	0	0	0	93,570
退職給付費用	3,326,400	0	0	0	0	3,326,400
助成費	24,804,220	0	0	5,670,000	0	30,474,220
療養助成費	10,704,220	0	0	5,670,000	0	16,374,220
治療研究助成費	7,100,000	0	0	0	0	7,100,000
調査研究助成費	7,000,000	0	0	0	0	7,000,000
活動費	32,835,578	123,409,361	2,383,073	0	1,676,056	160,304,068
会議費	1,069,819	29,520	0	0	35,687	1,135,026
旅費交通費	11,964,349	825,930	0	0	92,305	12,882,584
通信運搬費	3,841,825	2,295,938	48,824	0	353,653	6,540,240
消耗品費	745,502	1,058,096	9,591	0	3,529	1,816,718
修繕費	0	38,632,999	14,904	0	0	38,647,903
印刷製本費	1,233,263	371,252	0	0	644,252	2,248,767
光熱水料費	0	10,329,040	398,083	0	0	10,727,123
保険料	230,734	1,041,260	6,750	0	0	1,278,744
諸謝金	1,375,896	0	0	0	0	1,375,896
業務委託費	0	38,843,453	122,988	0	0	38,966,441
広報費	3,060,117	0	0	0	0	3,060,117
支援費	1,562,356	0	545,000	0	0	2,107,356
図書資料費	124,100	232,611	0	0	10,800	367,511
保健衛生費	0	448,755	150,000	0	0	598,755
ゴールドリボン制作費	2,089,260	0	0	0	0	2,089,260
宿泊施設運営費	705,584	0	0	0	0	705,584
租税公課	69,275	9,359,625	0	0	0	9,428,900
リネン賃借料	0	336,494	0	0	0	336,494
事業協力費	673,199	0	0	0	0	673,199
会場費	2,939,964	0	0	0	0	2,939,964
雑費	1,068,687	345,577	73,568	0	535,830	2,023,662
保守料	0	12,711,016	63,740	0	0	12,774,756
リース料	0	2,169,387	0	0	0	2,169,387
植栽管理費	0	865,870	0	0	0	865,870
借地料	0	0	845,832	0	0	845,832
衛生管理費	0	3,442,986	64,800	0	0	3,507,786
消耗什器備品費	81,648	69,552	38,993	0	0	190,193
減価償却費	184,247	27,325,773	1,822,002	0	0	29,332,022
建物減価償却額	100,247	24,882,940	1,716,734	0	0	26,699,921

科目	一般会計	AFLACヘアレンツハウス 特別会計	三重ファミリールーム 特別会計	メイスイ財団 小児がん骨髄移植基金 特別会計	小児がん経験者・ がん遺児奨学金特別会計	合計
建物附属設備減価償却額	0	1,598,796	0	0	0	1,598,796
ソフトウェア減価償却額	84,000	14,400	0	0	0	98,400
什器備品減価償却額	0	829,637	105,268	0	0	934,905
奨学金給付費	0	0	0	0	77,050,000	77,050,000
奨学金給付費	0	0	0	0	77,050,000	77,050,000
管理費	31,889,232	0	0	0	0	31,889,232
人件費	21,354,555	0	0	0	0	21,354,555
給与	16,393,420	0	0	0	0	16,393,420
法定福利費	2,725,511	0	0	0	0	2,725,511
福利厚生費	18,024	0	0	0	0	18,024
退職給付費用	2,217,600	0	0	0	0	2,217,600
活動費	9,848,966	0	0	0	0	9,848,966
会議費	84,959	0	0	0	0	84,959
旅費交通費	1,134,007	0	0	0	0	1,134,007
通信運搬費	917,551	0	0	0	0	917,551
消耗品費	238,115	0	0	0	0	238,115
修繕費	4,000	0	0	0	0	4,000
印刷製本費	1,336,643	0	0	0	0	1,336,643
図書資料費	48,444	0	0	0	0	48,444
保守料	604,248	0	0	0	0	604,248
リース料	2,328,681	0	0	0	0	2,328,681
支払報酬	2,030,400	0	0	0	0	2,030,400
租税公課	89,432	0	0	0	0	89,432
消耗什器備品費	12,706	0	0	0	0	12,706
雑費	1,019,780	0	0	0	0	1,019,780
減価償却費	685,711	0	0	0	0	685,711
ソフトウェア減価償却額	656,916	0	0	0	0	656,916
什器備品減価償却額	28,795	0	0	0	0	28,795
経常費用計	121,612,984	191,802,393	4,205,075	5,670,000	82,820,056	406,110,508
評価損益等調整前当期経常増減額	92,887,644	△ 18,786,524	9,117,873	2,121,364	△ 5,407,358	79,932,999
評価損益等計	0	0	0	0	0	0
当期経常増減額	92,887,644	△ 18,786,524	9,117,873	2,121,364	△ 5,407,358	79,932,999
<b>2. 経常外増減の部</b>						
(1) 経常外収益						
経常外収益計	0	0	0	0	0	0
(2) 経常外費用						
経常外費用計	0	0	0	0	0	0
当期経常外増減額	0	0	0	0	0	0
当期一般正味財産増減額	92,887,644	△ 18,786,524	9,117,873	2,121,364	△ 5,407,358	79,932,999
一般正味財産期首残高	443,617,794	153,308,176	13,313,925	3,974,597	0	614,214,492
一般正味財産期末残高	536,505,438	134,521,652	22,431,798	6,095,961	△ 5,407,358	694,147,491
<b>II 指定正味財産増減の部</b>						
受取補助金等	524,400	30,086,000	0	6,000,000	0	36,610,400
受取補助金	0	30,086,000	0	0	0	30,086,000
受取助成金	524,400	0	0	6,000,000	0	6,524,400
小児がん骨髄移植基金 助成金	524,400	0	0	6,000,000	0	6,000,000
受取寄付金	1,300,000	111,880,425	11,231,000	0	77,410,723	201,822,148
指定寄付金	1,300,000	111,880,425	11,231,000	0	77,410,723	201,822,148
三重ファミリールーム指定寄付金	0	0	11,231,000	0	0	11,231,000
施設運営指定寄付金	0	111,880,425	0	0	0	111,880,425
国際交流指定寄付金	1,300,000	0	0	0	0	1,300,000
がん遺児奨学金指定寄付金	0	0	0	0	77,410,723	77,410,723
特定資産評価損	2,703,910	0	0	0	0	2,703,910
一般正味財産への振替額	△ 1,824,400	△ 168,448,161	△ 12,947,734	△ 7,791,276	△ 77,410,723	△ 268,422,294
指定寄付金	△ 1,300,000	△ 168,448,161	△ 11,231,000	0	△ 77,410,723	△ 258,389,884
受取助成金等	△ 524,400	0	△ 1,716,734	△ 7,791,276	0	△ 10,032,410
当期指定正味財産増減額	△ 2,703,910	△ 26,481,736	△ 1,716,734	△ 1,791,276	0	△ 32,693,656
指定正味財産期首残高	115,479,840	1,788,425,699	20,265,576	1,791,276	212,089,255	2,138,051,646
指定正味財産期末残高	112,775,930	1,761,943,963	18,548,842	0	212,089,255	2,105,357,990
<b>III 正味財産期末残高</b>	649,281,368	1,896,465,615	40,980,640	6,095,961	206,681,897	2,799,505,481



## 1 療養援助事業

療養援助事業は、患児が等しく医療が受けられることを願い、療養に伴う経済的負担が軽減されることを目的として、創設当時から今日まで継続している事業です。創設当時は、高額な小児がんの治療費のほとんどが自己負担でしたが、現在はその多くが公費負担となっています。しかし、治療期間が長期にわたること、保護者の付添いによる二重生活やきょうだいの保育などさまざまな負担が生じていることには変わりはありません。当事業は、経済的な支援としての一面だけでなく、本申請を通じて、闘病中の家族が当会や病院、地域の相談員等とつながり、さまざまな相談をする関係性を構築するためのきっかけにも役立っています。時代や療養環境の変化に対応するため、2016年度より改定を行い、従来「一般療養助成」と「特別療養助成」の2種類に分かれていたものを一つの「療養援助制度」に改めました。対象者、対象事項等は以下の通りです。

**対象者** 18歳未満で小児がんを発症し、申請時20歳未満の抗腫瘍治療中の患児の家族（一疾病で一回限りの援助）で、以下の条件に該当する場合

- ① 給与所得者：前年の課税所得（源泉徴収票の「給与所得控除後の金額」から、「所得控除後の金額」）を引いた額が400万円以下の場合
- ② 自営業者：前年の確定申告書の「課税される所得金額」※が400万円以下の場合  
※ 専従者がいる場合は、「課税される所得額」に「専従者給与（控除）額の合計額」及び「青色申告特別控除額」を加算した金額

**援助対象事項** 1) 抗腫瘍治療中で入院療養に必要な対応として①～③のいずれかに該当する場合

- ① 以下の治療を要する場合  
移植の実施／難治性（転移もしくは再発がある又は有効な治療法がない）のため治療を要する場合／特殊治療が必要
- ② 治療上のやむを得ない理由から治療施設と自宅が片道150km以上離れている遠隔地で治療を要した場合
- ③ 未就学児のきょうだいがいる場合

2) 抗腫瘍治療中で入院・外来を問わず課税所得100万円（生計を一にする親族に所得がある場合は合算）以下の世帯（生活保護受給世帯を含む）

**援助対象期間** 申請書受理日から遡って3ヶ月間

**援助の決定** 療養援助委員会の審査会（年5回開催）にて、援助内容・金額を決定する。

### ■本年度決定実績

総額：16,374,220円（旧制度：3,294,000円※、新制度：13,080,220円）

	一般療養助成	特別療養助成	内特別会計該当分
旧制度決定実績※	5件	88件	17件
援助決定総額 (1件当たり平均)	150,000円 (30,000円/件)	3,144,000円 (35,517円/件)	690,000円
2016年度～療養援助			
新制度決定実績	143件		88件
援助決定総額 (1件当たり平均)	13,080,220円 (91,470円/件)		4,980,000円

※ 制度改定に伴い、2016年3月31日までに届いた計93件について、旧制度の下で2016年度に審査決定をしたため、上記の通り記載。

本事業は、大原小児がん基金、日本労働組合総連合会「愛のキャンパ」、NPO法人酒は未来を救う会、有限会社吉半及び一般財団法人日本メイスン財団（特別会計該当分）からの寄付をいただきました。

## 2 相談事業

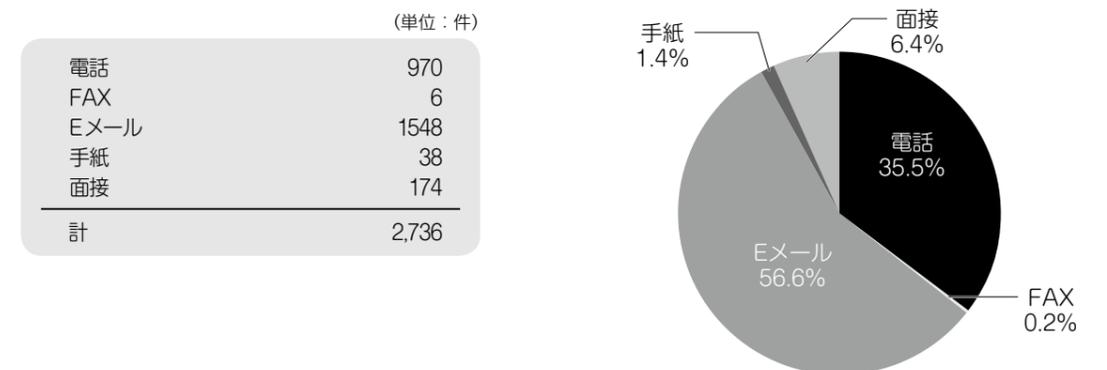
### (1) 小児がん相談事業

日本では年間約2,000人の子どもたちが、あらたに小児がんと診断されています。当会が設立された当時は不治の病とされていましたが、現在は医療技術の進歩により、小児がん全体の7割から8割が治るようになってきました。一方、未だ年間500人ほどの子どもが亡くなる厳しい現状もあり、小児がんは幼い命を脅かす病気の筆頭であることには変わりはありません。

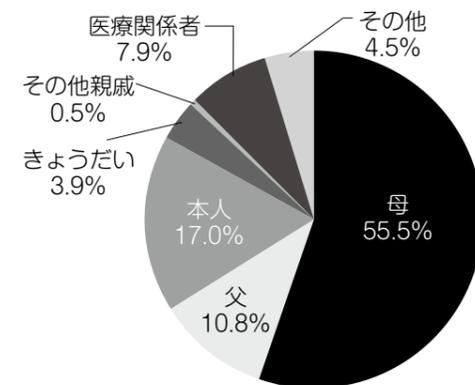
患児・家族は、数ヶ月から年単位の長期にわたる入院生活を強いられることが多く、それまでの家庭生活や社会生活は一変します。加えて、告知をどうするか、きょうだいのケアをどうするか、療養にともなう経済的負担にどう対処するか、学校をどうするかなど、家族は多くの問題に直面することとなります。小児がんの強力な治療は子どもの心身への負担も大きく、治療が終了した後も長期的な影響として身体的・精神的不調が残ることも稀ではありません。

このように多くの不安や悩みを抱える患児・家族に対して、治療中はもちろん、治療を終えた後も、また子どもが亡くなった後も、継続したサポートが必要とされています。当会では、1973年に専任のソーシャルワーカーによる相談事業を開始し、以来40年以上相談支援を行っています。2016年度は、東京・大阪両事務所に常駐するソーシャルワーカーが計5名体制で、相談に応じました（詳細は下記をご参照ください）。

### 1. 相談方法

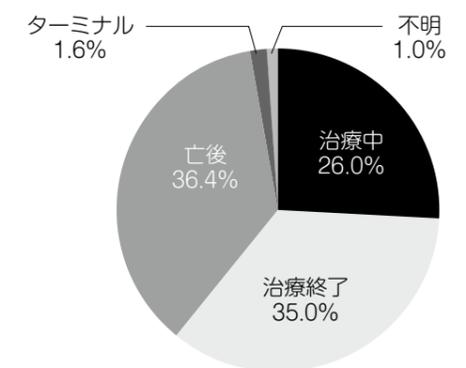


### 2. 相談者属性



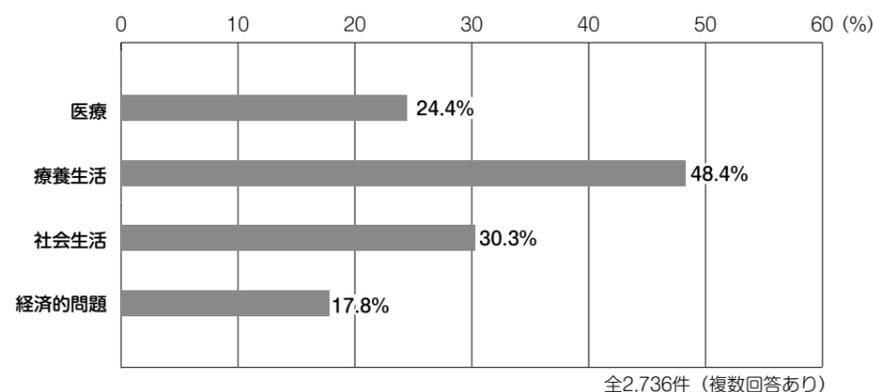
その他内訳：知人、保育教育関連、保健所等行政、他団体等

### 3. 相談時期





#### 4. 相談内容



※上記の各集計分類に含まれる内容は、以下の通りです。

医療：治療内容、心理社会的、医療者との関係、晚期合併症、セカンドオピニオン等

療養生活：心理社会的、グリーフ、近況、きょうだい・家族について、親の会・経験者の会について、お礼、かつら、宿泊等

社会生活：心理社会的、自立、教育、就労、保育等

経済的問題：療養援助事業、心理社会的、社会制度、保険等

#### (2) 小児がん こどもでんわ相談室

2015年8月より、「小児がん こどもでんわ相談室」(フリーダイヤル：0120 - 307 - 164) を開設しました。毎月第1水曜日(祝日の場合は翌週)の16時から19時に、小児がんについての悩みや不安、疑問などに、ソーシャルワーカーと小児科医(奇数月)がお応えしています。

2015年度に引き続き「小児がん こども電話相談室」の周知のために、小児がん拠点病院、小児がん診療病院、保健所等にチラシやカードを配置していただいています。

#### (3) 相談会の開催

患儿・家族が個別に専門医に相談できる機会として、下記の個別相談会を開催しました。

##### 個別相談会

年月日	内容	相談医	会場
2016. 9. 21	小児がん全般に関する事	細谷 亮太 嘱託医/聖路加国際病院 小児科	東京(本部)
10. 5	整形外科	川井 章 国立がんセンター中央病院 骨軟部腫瘍科	東京(本部)
2017. 1. 27	脳神経外科	柳澤 隆昭 東京慈恵会医科大学 脳神経外科 小児脳腫瘍部門	東京(本部)
3. 22	小児がん全般に関する事	前田 美穂 日本医科大学付属病院 小児科	東京(本部)

#### (4) 子どもを亡くした家族の会

##### ①子どもを亡くした家族の交流会

子どもを亡くした家族の交流やわかちあいの場の提供を目的として、ペアレンツハウス浅草橋(東京)、ペアレンツハウス大阪にて交流会を年8回開催しました。会は、母親の会、父親の会、家族の会、ひとりっ子を亡くされた親の会、というテーマを設け、各回とも、当会ソーシャルワーカーの進行のもと、参加者が体験や近況などを話しあい交流を深めました。

また、3月18日には交流会の一環として、作家の柳田邦男先生によるグリーフ講演会を京都にて行いました。

##### ②短期集中サポートグループ

子どもを亡くされたことに関する様々な感情の表出や共感の機会の提供を目的として、子どもを亡くされて1年未満の母親を対象にサポートグループを開催しています。

##### ■サポートグループ

2016年度はグループの開催には至りませんでした。2015年度のグループの同窓会を開催しました。

##### 〈2015年度サポートグループの同窓会〉

サポートグループが終了した後は、参加者へのフォローアップの目的もかねて、半年後及び1年後の2回にわたり同窓会と称した集まりをもっています。昨年度春に大阪で開催した半年後の同窓会を本年度は10月28日に行い、5名の方が参加されました。また、12月12日には、昨年度秋に東京で開催したグループの同窓会を行い、2名の方が参加されました。

#### (5) 小児がん経験者への支援活動

##### ①小児がん経験者の会リーダーの集い

小児がん経験者の会のリーダー及びこれから会を立ち上げようとしている小児がん経験者たちが、会を運営していく上での悩みや課題を一緒に考え共有していくことを目的とし、2003年より「小児がん経験者の会リーダーの集い」を開催しています。

2016年度は11月27日にがんの子どもを守る会本部事務所に開催し、全国から5グループ10名が参加しました。アドバイザーとして一般社団法人グループ・ネクサス・ジャパンの天野慎介氏をお招きし、前半は天野氏の講演、後半はロールプレイを行い、経験者の会の運営や意義を確認する有意義な機会となりました。

##### ②活動費の支援

小児がん経験者の会に対して活動費の支援を行っています。2016年度は7団体に計13万5千円の活動費の支援を行いました。また、小児がん経験者による企画(プロジェクト)に対する助成金として、「シェイクハンズ!~小児がん経験者の集い~」に20万円、「Fellow Tomorrow(フェロー・トゥモロー)/オークの木/WISH 合同交流会」に6万5千円の支援を行いました。



### ③ Fellow Tomorrow (フェロー・トゥモロー) / WISHへの支援

1993年に発足した小児がん経験者の会「Fellow Tomorrow (フェロー・トゥモロー)」の2016年6月12日に開催された総会、及び9月4日、12月4日、2月26日に開催された定例会に当会ソーシャルワーカーが参加したり、運営の助言や参加者への支援を行いました。また、2000年に発足した東海地域の小児がん経験者の会「WISH」についても、ソーシャルワーカーが運営の助言や参加者の支援を行いました。

### ④スマートムンストーンキャンプ

2016年7月29日から8月1日まで、北海道滝川市にあるそらぶちキッズキャンプにて、第20回スマートムンストーンキャンプ(SMS)を開催いたしました。

SMSは告知をされて小児がんと向き合ってきた子どもたちを対象にし、1998年に3人の医師、看護師などからなる運営スタッフによって始められたキャンプです。

キャンプ開始から10年以上が経過し、小児がんを取り巻く状況の変化に伴い、キャンプの運営体制も変化してきました。これまでキャンプで築かれた子どもたちのつながりを深くしていきながらも、新しい仲間を迎えられるように、運営スタッフ主体のキャンプから「小児がん経験者が主体となって運営するキャンプ」を目指し、2011年からは企画運営はボランティアを中心に行っています。また、2012年度からは当会の事業として運営しております。

今年は参加者26名、ボランティア7名、キャンプリーダーの稲田浩子先生(佐賀県医療センター好生館小児科)と小児がん経験者のボランティアリーダー5名を含む実行運営グループ10名の43名で開催されました。なお、本事業は毎日新聞東京社会事業団のご寄付によって運営されています。

協賛：毎日新聞東京社会事業団

協力：公益財団法人そらぶちキッズキャンプ、株式会社スタイリングライフ・ホールディングス

## (7) きょうだいの支援

### ①富士山にアタック!! 2016

小児がんの子どもへのきょうだい向けのイベントは少なく、出会いや交流の場が少ないのが現状です。当会では、2001年より毎日新聞社の支援を受け、小児がん患児のきょうだいのための富士山キャンプを行っています。

16回目となる2016年度は7月30日～8月1日の日程で開催し、小児がんの子どもへのきょうだい9名、ボランティア8名、医師及び当会職員を含む合計24名が参加しました。初日、河口湖畔の公園でのレクリエーションを通して親睦を深め、翌日は早朝に宿を出発、富士山5合目より皆一緒に登山を開始しました。また、最終日にはトウモロコシ刈りも体験しました。キャンプ中、「きょうだいたちのお話し会」も開催し、同じ思いを分かち合うとともに、お互いを知り理解を深める機会となりました。

協賛：あいおいニッセイ同和損害保険株式会社、毎日新聞東京社会事業団

協力：株式会社ガイア、株式会社スタイリングライフ・ホールディングス

### ②きょうだいの交流会 てんとうむし

当会では、きょうだい支援の一環として、富士山にアタック!! 参加者の「富士山だけじゃなくもう少し会いたいね」「旅行じゃなくて気軽に参加できたらいいな」という声から、2011年より小児がんのきょうだいの交流会を開催しています。開催にあたっては、小児がんの子どもへのきょうだいたちが中心となって企画・運営をし、「てんとうむし」と名付けられました。これはテントウムシ(天道虫)が日本では太陽に向かって飛ぶといわれていること、また、外国では『子どもの守り神』といわれていることから、「子どもたちが守られ、その子の太陽に向かい自由に飛ぶ」という意味を込めています。同じ小児がんの子どもへのきょうだい同士が、こころにとめていた想いを語り合い、分かち合い、同じ立場の人がいるという繋がりや安心感をもてる場として、10月23日の親睦会と3月26日の交流会の計2回を開催し、初参加のきょうだいもあり、充実した時間を過ごしました。

## (8) 子ども用車いすレンタル体制の整備(寄贈)

小児がんの中には、病状の進行と共にADL(日常生活動作)が低下し、障害認定がその低下に追いつかないことが生じます。子ども用車いすは、高価であること、購入に時間がかかること、貸出サービスが少ないなど、円滑な準備が難しく、子どもたちのより良い時間を過ごすことを阻む要因にもなっています。当会では、従来より東京と大阪の事務所にて、子ども用車いすの貸し出しをしておりますが、直接、取りに来ていただけることが条件となり、遠方の方にお貸しできないことが課題となっております。そこで、当会ではザ・レジェンド・チャリティプロアマトーナメント実行委員会様より頂戴した寄付をもとに新しく子ども用車いすを購入しました。4つの拠点病院(北海道大学病院、東北大学病院、名古屋大学病院、九州大学病院)の協力の元、各地域の小児がんの子どもたちのために活用いただけるよう、車いすレンタル体制を整え、2017年度より5か年の計画で運用をお願いしております。



## (6) 親の会支援

### ①親の会連絡会

小児がん親の会が、会の運営や活動を共有しあうことを目的として年1回の集まりを持ち情報交換等を図る場として、1997年より「全国小児がん親の会連絡会」を開催しています。

20回目となる2016年度は、6月18日、国立成育医療研究センターを拠点として活動する「小児がん患者家族の会 あすなろクラブ」の幹事のもと、東京都世田谷区の同センター研究所にて開催、全国から22団体38名の参加がありました。当日は、小児がんセンター長の松本公一先生から「小児がん拠点病院と中央機関の役割」をテーマに今後の小児がん対策についての展望などご講演いただき、その後、6つのグループに分かれ、親の会の活動や運営について活発な意見交換が行われました。センターのご厚意により、病棟・分教室、医療型短期滞在施設、マクドナルドハウスなどの施設も見学させていただき、充実した1日となりました。

### ②活動費の支援

全国の病院内や疾病別に発足している小児がん親の会は、子どもが小児がんにかかった親たちが身近に相談できる場所として大変重要です。各会に対して、運営や設立に関する相談に応じるほか、小児がん親の会に対して活動費の支援を行っています。本年度は、21団体に計60万円の活動費の支援を行いました。



### 3 治療研究事業

#### (1) 治療研究助成

子どもたちを小児がんのさまざまな脅威から守るため、その予防、早期の適切な診断、治療成績の一層の向上と後遺症のない治癒、トータルサポートによるよりよい療養生活などの実現に寄与する調査研究の促進を目的とし、小児がん経験者に関する研究、小児がんに関するトータルケアの研究、小児がんに関する基礎系・臨床系の研究の3課題で募集いたしました。審査の結果、24件（助成総額7,100,000円）を助成いたしました。助成金の一部についてはロート製薬株式会社からがも基金、ゆめちゃんを救う会からのご寄付も活用させていただきました。

#### 〈2016年度 治療研究助成一覧〉

（助成期間：2016年10月1日～2017年9月30日）

氏名（敬称略：順不同）	所 属	研究名称
櫻井 英幸	筑波大学・医学医療系 放射線腫瘍学	小児・AYA世代のがんのための陽子線治療ガイドライン作成
栗原 康通	京都府立医科大学 分子生化学	長鎖ノンコーディングRNA発現が悪性ラプドイド腫瘍病態に及ぼす意義の解明
越永 従道	日本大学医学部 外科学系小児外科学分野	わが国発の小児高リスク腎腫瘍に対する新規治療法開発のための臨床試験
佐野 秀樹	福島県立医科大学附属病院 小児腫瘍内科	転移性ユーイング肉腫に対する標準的治療法の開発
中野 嘉子	国立がん研究センター研究所 脳腫瘍連携研究分野	本邦における小児グリオーマの遺伝子解析と検査法の確立
津村 明美	名古屋市立大学大学院医学研究科 精神腫瘍学分野	小児がん患者・家族に対する新たなサポートシステムおよびケア方法の開発研究
大隅 朋生	国立成育医療研究センター 小児がんセンター	放射線照射を受ける小児に対するプレパレーション・リハーサルの有用性に関する研究
大杉 夕子	独立行政法人国立病院機構 大阪医療センター 小児科	小児白血病経験者の就学・就労促進に関わる要因と支援に関する研究
高取 敦志	千葉県がんセンター研究所 がん治療開発グループ	神経芽腫のキナーゼ阻害剤耐性ALK遺伝子異常を標的とした革新的治療法の開発
田中 祐吉	神奈川県立病院機構 神奈川県立こども医療センター 臨床研究所・病理診断科	小児固形腫瘍の生物学的特性の解明と新たな病理組織分類アトラス作成
金沢 英恵	国立成育医療研究センター 感覚器・形態外科部 歯科	小児がん経験者の歯の晩期合併症の実態調査に関する研究 - 三次元的評価項目の検討
原（野上） 愛	就実大学薬学部 薬効解析分野	L-Asp 特異的抗体検出法の開発とアレルギー反応の予見
近藤 格	国立がん研究センター研究所 希少がん研究分野	小児悪性脳腫瘍に対する分子標的治療薬の適応拡大の基盤研究
宮原 弘明	大分大学医学部附属病院 小児科	難治性脳腫瘍：びまん性橋膠腫（DIPG）に対する新しいエピジェネティクス治療
後藤 清香	国立成育医療研究センター 看護部 / 東北大学大学院医学系研究科保健学専攻 小児看護学分野	小児がん患児の標準復学支援要領の開発
福島 紘子	筑波大学 医学医療系小児科	陽子線照射後のQOL調査
上別府圭子	東京大学大学院医学系研究科 健康科学・看護学専攻家族看護学分野	患者・家族の視点を小児がん研究へ導入するために - QOL研究センターの確立 -
林 克洋	金沢大学附属病院 整形外科	血中エクソソームによる悪性腫瘍の早期診断と予後予測

鈴木 良弘	日本大学医学部 生体機能医学系・生理学分野	TRAILおよびプラズマによる神経芽腫・骨肉腫の治療法の開発
阿部 健作	金沢大学大学院医薬保健学総合研究科 がん医科学専攻	軟部肉腫のGSK3βを標的とする新規治療法の開発とメカニズム
由井 里洋	野崎徳洲会病院附属研究所 悪性腫瘍新規治療法開発研究部	骨軟部腫瘍肺転移の抗転移薬開発のための基礎研究
末永 雄介	千葉県がんセンター研究所 がんゲノムセンター	初代培養法を用いた再発骨肉腫に対する新規薬剤の探索
川野 孝文	鹿児島大学医学部・歯学部附属病院 小児診療センター小児外科	神経芽腫に対する選択的腫瘍細胞壊死を目指したSono Dynaic Therapyの開発 - モデルマウスを用いた新規治療法の開発 -
日置 一成	広島大学病院 診療支援部放射線治療部門	画像誘導放射線治療における小児がん患者の被ばく線量に関する研究

#### (2) 海外留学助成

小児がん領域における若手オンコロジストの育成並びに当領域における研究のより一層の向上・発展を図ることを目的とし、海外の大学あるいは研究施設に留学し小児がん領域における基礎・臨床の研究を行う臨床研究者に対して奨学助成を行う「Pediatric Oncology Research Fellowship」（PORF 海外留学助成制度）を2001年度から実施しています。

2015年度助成課題（\*審査の都合により2016年5月に決定）

小牧祐雅（鹿児島大学大学院消化器疾患・生活習慣病学）

テーマ：小児炎症性腸疾患における大腸癌及び治療関連癌の免疫的研究

2016年度助成課題

審査の都合により留学者の決定は2017年度に実施。

### 4 総合支援施設運営事業

#### (1) アフラックペアレンツハウスの運営事業

アフラックペアレンツハウスは、小児がんなど難病の患児・家族が安心して利用できることを目的として建設された、日本で最初の総合支援センターです。この施設は、単に遠隔地から治療に付き添う家族が利用する宿泊施設としてだけでなく、治療中、治療後の患児、家族が抱える様々な問題に対して当会のソーシャルワーカーが相談に応ずることができる総合支援施設として運営しています。亀戸（東京都江東区亀戸、2001年2月開設）、浅草橋（東京都台東区浅草橋、2004年12月開設）、大阪（大阪府大阪市中央区、2010年1月開設）の3施設は、いずれも開設以来順調にご利用いただいております。2017年3月末時点で3棟合わせて延べ127,410人を超える患児・家族の皆様にご利用いただいております。

また、亀戸及び浅草橋については設立より10余年が経過し、施設の老朽化が進んでいたことから、国及び東京都からの補助金を受け、2016年12月～2017年2月にかけて、亀戸及び浅草橋の外壁及び屋上防水に係る改修工事を行いました。

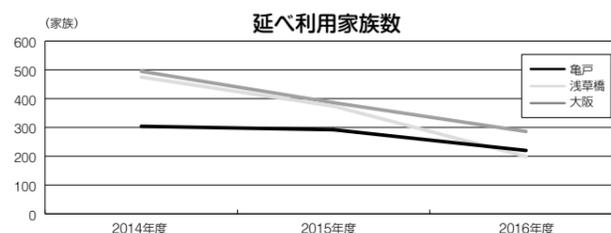
なお、運営に関する費用については、アフラック並びにアフラックの社員及び全国の代理店（アフラック全国アソシエイツ）の皆様からのご支援により賄われ、運営しております。



## ■利用状況

延べ利用家族数 (2015年4月1日～2016年3月31日)

亀戸 (16室)	／220家族
浅草橋 (17室)	／199家族
大阪 (12室)	／286家族
計	705家族



浅草橋 外観



亀戸 外観 (外壁工事中)

## (2) その他の宿泊施設

### ①あかつきハウス

1995年にオープンした「あかつきハウス」は、遠隔地から東京都中央区内の病院で治療をされる患児とその家族のための宿泊施設です。区立住宅「築地あかつき住宅」の1戸を特別に借り受け、管理・運営しています。利用料は1部屋2,000円(クリーニング費等含む)です。2016年4月1日より2017年3月31日までの間、延べ29家族の利用がありました。

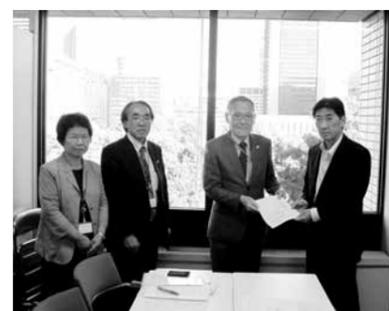
### ②三重ファミリールーム

三重ファミリールームは、三重大学医学部附属病院、および近郊の病院に入院中あるいは小児科外来等に通院中の小児慢性疾患児とその家族のための宿泊施設で、2階建ての建物に和室4室があります。三重ファミリールーム運営委員会(三重大学附属病院小児科内)と当会で管理・運営しています。利用料は1泊1,000円、昼間の利用は300円です。2016年4月1日より2017年3月31日までの間、延べ103家族の利用がありました。

## 5 小児がん・難病対策

当会では設立以来、新薬の承認、医療費の公費負担の実現など小児がん患児・家族が抱える制度上の問題点を訴え、発信し続けてきました。

本年は第3期となる国のがん対策推進基本計画が2017年に更新されることから、患者・家族からのアンケートを基に次期計画への要望書を厚生労働省へ提出しました。アンケートには医師・看護師の方にもそれぞれの学会を通じて協力をしてもらい、患児・家族だけではなく、医療を提供する側の声も含める形で、日本小児血液・がん学会及び日本小児がん看護学会の連名による要望書となりました。



当会では会員が国や地方自治体が運営する様々な協議会に患者家族の代表として参画し、政策への意見や提言を活発に述べることができました。

## ■当会が参画している委員会及び各地域のがん対策協議会等

国、地域：中央機関アドバイザーボード、関東甲信越地域小児がん医療提供体制協議会  
都道府県：東京都、大阪府(小児がん部会)、富山県、岡山県、香川県、愛媛県、福岡県、沖縄県  
小児慢性協議会：宮城県、新潟県、静岡県、静岡市、愛媛県、宮崎県

## 6 支部活動

当会には全国に21の支部があります(2017年3月31日現在)。各地域の会員ボランティアにより組織され、地元の医療関係者等の協力を得ながら、各地のニーズにあわせた相談会や交流会などを開催し、患児・家族と医療関係者のコミュニケーションを深めるとともに、患児・家族のよりよい療養生活の実現を目指して活動しています。

### (1) 講演会、交流会、相談会、総会等

開催月	支部	内 容
4月	福井	ピアサポートカフェ(嶺北地区)
5月	富山	シンポジウム・交流会(支部総会)
	愛媛	野外BBQ大会
	高知	ピアサポートカフェ
6月	北海道	はるにれの会(子どもを亡くした親の会)
	福島	シンポジウム「小児がんの子どもと家族の明日を支える」
	福井	支部総会、小児がん経験者カフェ
	関西	のぞみトークきんき2016「小児がんの画像診断」「小児がんに対する放射線治療」
7月	広島	支部総会・交流会・子どもプログラム
	新潟	支部総会、公開シンポジウム、ピアサポート研修会、あおぞらの会(子どもを亡くした親の会)
	福井	ピアサポートカフェ(嶺南地区)
	九州北	レモネードスタンド in ふくおか
8月	宮崎	講演会「小児がん(経験者)の長期フォローアップ」
	宮城	足うらセルフマッサージ&カフェ、そらの会(子どもを亡くした親の会)
	岡山	交流会
	香川	交流会、子どもを亡くした親の会、四つ葉のクローバー(小児がん経験者)の会
9月	九州北	第44回 講演・交流会「小児がんの治療：患者さんの目線、医療スタッフの目線」
	関東	病棟訪問人形劇
	富山・福井	のぞみ北陸小児がん交流会 in 金沢
	東海	虹の会(子どもを亡くした親の会)
10月	高知	ピアサポートカフェ
	九州北	第45回 講演・交流会「お子さまを亡くされたご家族の集い」
	北海道	病棟訪問人形劇
10月	宮城	いも煮会(交流会)
	静岡	静岡県東部健康福祉センター共催講演会
	高知	シンポジウム「社会で活躍する小児がん経験者」



開催月	支部	内 容
11月	北海道	はるにれの会（子どもを亡くした親の会）
	宮城	3D上映会（交流会）
	福島	個別相談会
	長野	支部総会
	新潟	あおぞらの会（子どもを亡くした親の会）、病棟訪問人形劇
1月	岡山・広島・香川・愛媛・高知	第4回中国四国支部合同交流会（岡山市）
	新潟	第1回ピアサポート・ママカフェ
	福井	ピアサポートカフェ（丹南地区）
2月	東海	虹の会（子どもを亡くした親の会）
	宮城	研修会
	新潟	第2回ピアサポート・ママカフェ
	関西	近畿小児がん研究会公開シンポジウム「思春期～知りたいこと 伝えたいこと～」
3月	香川	ピアサポーター研修
	高知	小児がんフォーラム&小児がん啓発ミニコンサート
	福島	子どもを亡くした家族の会
	東海	三重大講演会「小児がん看護の現状」「当院小児トータルケアセンターの活動」・相談会

※ 他、各支部では様々なイベントや啓発活動、募金活動等を実施しました。

### 支部活動の風景



いも煮会



講演会の様子

### (2) 支部連絡会

支部活動の活性化、および質の向上を目的に、2016年6月12日、および10月15日～16日の2回にわたり支部連絡会を開催しました。本年度は、ロールプレイを中心としたピアサポート研修を実施した他、小児がん対策についての東京都立小児医療総合センター血液・腫瘍科の湯坐有希先生にご講演をいただき、その後、各地域における小児がん対策の課題についてのディスカッションにつなげました。また当会が過去48年間にわたりどのような取り組みをしたかを振り返るとともに、今後、新たな50年に向けて当会がどのような形で小児がん患児・家族を支援をしていくか等、今後の活動を考えるワークショップを行いました。



ディスカッションの様子



発表の様子

## 7 広報・啓発・募金活動 等

### 第21回がんの子どもを守る会公開シンポジウム

2016年12月15日（木）～12月17日（土）、品川プリンスホテルにて、第58回日本小児血液・がん学会学術集会（会長：黒田達夫）、第14回日本小児がん看護学会学術集会（会長：石川福江）、第21回公益財団法人がんの子どもを守る会公開シンポジウムを下記の通り開催いたしました。

後援：厚生労働省、東京都、公益社団法人日本小児科学会、特定非営利活動法人日本小児外科学会、一般社団法人日本小児看護学会

#### ■公開シンポジウム

「小児がんの子どもをきょうだいたち一そばにいるために知っておきたいこと」

- ・日 時：2016年12月17日（土） 9：30～11：00
- ・場 所：第6会場 メインタワー 10階
- ・座 長：小澤 美和（聖路加国際病院小児科）
- ・シンポジスト：小澤 美和（聖路加国際病院小児科 医師）  
小野 鈴奈（総合母子保健センター愛育病院保育士／前 国立研究開発法人国立成育医療研究センター保育士）  
田中 徹（当会会員 親）  
天野 美生（当会会員 きょうだい）  
佐藤 駿輔（当会会員 きょうだい）

・参 加 者：約280名

※ 本プログラムは、2016年度公益財団法人 JKA 補助事業の助成を受けて行いました。

#### ■3団体合同公開シンポジウム「わたしのグリーフ」

- ・日 時：2016年12月17日（土） 13：10～15：10
- ・場 所：第6会場 メインタワー 10階
- ・座 長：黒田 達夫（慶應義塾大学医学部小児外科／第58回日本小児血液・がん学会学術集会会長）  
石川 福江（前 杏林大学保健学部看護学科／第14回日本小児がん看護学会学術集会会長）  
山下 公輔（当会理事長）
- ・冒 頭 講 演：「大切な人との死別後に起きること、そこからの再生」  
大西 秀樹（埼玉医科大学国際医療センター精神腫瘍科）
- ・シンポジスト：天野 功二（聖隷三方原病院臨床検査科／静岡県立こども病院緩和ケアチーム 医師）  
谷口 由紀子（淑徳大学看護栄養学部地域看護学領域／  
前 医療法人麒麟会若葉訪問看護ステーション 看護師）  
坪田 起久恵（当会会員 親）  
乗越 美智代（当会会員 きょうだい）

・参 加 者：約300名

#### ■チャリティマラソン

- 日 時：2016年12月17日（土） 7：00～8：00
- 場 所：高浜運河（品川）周辺のコース
- 参 加 者：約30名

協賛（商品提供）：株式会社ガイア、moto factory BAN、Sugar Drops、株式会社スタイリングライフ ホールディングス



## ■小児がんの子どもたちの絵画展

当会では、多くの方に小児がんのことを知っていただくことを目的に、1998年より小児がんの子どもたちが描いた絵を展示し「小児がんの子どもたちの絵画展」を開催しています。本年度は、全国から寄せられた55作品を展示しました。

期 間：2016年12月15日（木）～11月17日（土）

来 場 者：約1,100人

特別協賛：一般社団法人ザ・レジェンド・チャリティプロアマトーナメント実行委員会

協 賛：公益財団法人原田積善会

東芝メディカルシステムズ株式会社



## ブース出展

小児がんの患児・家族への支援を目的にした各種チャリティーイベントや小児がん関連の会合の会場にて、小児がんの現状や当会の活動について周知し、その他募金活動を実施しました。

## ゴールドリボンによる啓発活動

ゴールドリボンとは、小児がんに対する理解や支援をよびかけるときに使われる世界共通のシンボルマークです。ゴールドリボンをあしらったアクセサリーを作成し、小児がんの啓発を兼ね、募金をされた方へ贈呈しました。

本年度も多くの企業や有志が集まった方々に様々な工夫を施した広報・募金活動を行っていただきました。

※ 500円以上の募金につき1つ、ゴールドリボンのバッジやストラップをお渡しして小児がんの理解や支援を広めています。本年度は、ピンバッジ8,425個、ストラップ2,510個、スワロフスキー付ピンバッジ105個のご支援をいただきました。（ゴールドリボンの製作費は清水建設株式会社に協賛いただきました）。



ゴールドリボンイラスト



ピンバッジタイプ



ストラップタイプ

## 常設募金箱の設置

店舗のレジ横などに設置できるオリジナル募金箱を作成し、支援者の方々のご協力のもと、広く募金活動を展開することができました。全国で46か所に設置のご協力をいただいております。



◀ 常設募金箱

支援自動販売機 ▶

## 支援自動販売機設置

売上の一部が当会に寄付される支援自動販売機があります。全国34か所に設置していただいております。

## 小児がんに関する冊子・資料の発行

より良い療養環境の整備に寄与することを目的として、冊子の発行を行い、患児・家族、小児がん医療に携わる医療者、教育関係者等に配布しました。本年度は新たに2016年度公益財団法人JKA補助事業の助成を受け「小児がんの子どもたちのきょうだいたち」を作成、発行しました。

## 国際小児がんデーの活動

2月15日は「国際小児がんデー」です。国際小児がんデーは国際小児がんの会（CCI：Childhood Cancer International）により創設され、国際小児がん学会（SIOP：The International Society of Pediatric Oncology）など世界的な主要機関のネットワークにより広がっています。当会では、2月1日～3月31日をキャンペーン期間とし、全国的に小児がんの啓発に努めました。また、今年は小児がんの子どもたちを支援する気持ちを身近な人と分かち合ってもらいたいとの想いで、メッセージカード付きのオリジナルチョコレートを用意して、多くの方にお届けしました。

後援：厚生労働省

## ■啓発チラシ配布及び募金活動

キャンペーンの期間、本部及び支部の主催、もしくは県庁や病院など関係機関との協力のもと、啓発チラシの配布や募金活動、小児がんについて考えるイベントなど、全国約60か所にて活動を行いました。活動の様子は各地域のメディアでも取り上げられました。



東海支部の募金活動



高知支部の募金活動

## 〈小児がんに関連する展示〉

公共施設や病院、ショッピングモール等の一角を使い、小児がんの子どもたちが描いた絵画のパネルや小児がんの資料展示を行いました。また、小児がんのシンボルであるゴールドリボンで装飾した「ゴールドリボンツリー」の展示も各地域にて行い、小児がんの認知度向上に努めました。



福井県小浜市役所での展示



福岡県庁での展示



（東京）文京シビックセンターでの絵画展



その他、国際小児がんデーキャンペーンの趣旨にご賛同くださった多数の関係機関、企業、個人の方からのご支援をいただきました。

#### 〈主な協カイベント〉

- ・神戸フィルハーモニック（コンサート会場にて啓発・募金活動）
- ・世界らん展（ブース出展、啓発・募金活動）
- ・文京区 小児がんの子どもたちの絵画展（絵画展示、啓発・募金活動）
- ・国立成育医療研究センター「もっと知りたい小児がん」共催（講演、交流会、ブース出展）
- ・大和市文化創造拠点シリウス／大和市立図書館（講演、絵画パネル展示）
- ・和宗総本山四天王寺（境内にて啓発・募金活動）

他

#### 〈主な協力企業〉

- ・明治安田生命保険相互会社（小児がんの講演会実施、絵画パネル展示、募金活動）
- ・ノバルティスファーマ株式会社（小児がんの講演会実施、絵画パネル展示、募金活動）
- ・日本チャールス・リバー株式会社（啓発・募金活動）
- ・株式会社なゆた（啓発・募金活動）
- ・第一生命保険株式会社 大阪市本町事業所（啓発・募金活動）
- ・富国生命保険相互会社（絵画パネル展示、啓発活動）

他

キャンペーンの報告等、詳細はスタッフブログでもご紹介しております。  
<http://blog.canpan.info/nozomi/>



オリジナルチョコレート



チョコレート用啓発カード



ICCDチラシ

#### キャンペーン中にいただいたコメントより

- ・小児がんについてある程度知っていると思っていましたが、やはり認識が違っていたところが多々ありました。現在まで小児がん経験者の方と出会ったことはありませんが、今回知ることができ、とても良かったと思います。今回聞いたことを少しでも周りに知ってもらえる様、私も話していきたいと思えます。
- ・小学生の息子を持つ身としては、決して他人事ではないと考えております。
- ・身近にがんを患った人はいても大人ばかりで、小児がんについては全く知りませんでした。微力ながら私にできることがあれば力になりたいと感じました。

## 8 国際活動

### 国際小児がんの会（CCI）への参加と協力

#### ■ CCI (Childhood Cancer International) 年次総会への参加

2016年5月、ロシアのモスクワで SIOPASIA と同時開催の CCIASIA 大会に当会理事長が参加しました。2016年10月17日から22日にアイルランドのダブリンにて SIOP（国際小児がん学会）と同時開催された第23回 CCI 年次総会に、当会理事長、小児がん患児の親1名、および小児がん経験者3名の計5名が参加しました。小児がん経験者の参加者は公募の上決定いたしました。

なお、2016年度年次総会開催時点にて CCI 全体の加盟国は93カ国183団体となりました。

### PHPF (Parents Helping Parents Fund) への協力

発展途上国等の CCI 年次総会参加を支援するための基金「PHPF」に600ユーロの寄付を行いました。

## 9 奨学金事業（アフラック小児がん経験者・がん遺児奨学金制度）

当事業は小児がん患児に充実した学校生活を送ってほしいとの想いで設立され、2014年度より奨学金の給付を開始しました。2015年度より、がん遺児も対象に加えて奨学金を給付しました。なお、本奨学金制度の内容は下記の通りです。

※ 当事業についてはアフラック並びにアフラック社員の皆様及び全国の代理店（アフラック全国アソシエイツ会）の数多くの方々からご支援を受け運営しています。

#### 対象者

- ・18歳未満で小児がんを発症した経験者及び、がんにより主たる生計維持者を失った遺児で、経済的な理由で高校等の進学・修学が困難な方。
- ・給付開始時に高等学校等に在学中の方。
- ・申請時における前年度の世帯収入が当会の定める上限を超えない方。

#### 対象となる教育機関

「高等学校」、「中等教育学校の後期課程」、「専修学校の一般過程及び高等課程」、「特別支援学校の高等部」、「高等専門学校」

#### 給付金額

- ・月額25,000円
- ・対象となる教育機関で正規の最短修業期間。
- ・奨学金の返還は原則不要。

#### 本年度実績

小児がん経験者	：助成件数	47件	(高1 10件、高2 16件、高3 21件)
がん遺児	：助成件数	212件	(高1 60件、高2 92件、高3 60件)
合計	：助成件数	259件	(高1 70件、高2 108件、高3 81件)
給付金額	：給付金額	77,050,000円	



## 10 ボランティアコーディネーター・研修会

### (1) 遊びと学習のボランティア たんぽぽ

「遊びと学習のボランティア たんぽぽ」は、当会ソーシャルワーカーが福祉系大学に通う学生に呼びかけ結成されたボランティアグループであり、1992年より現在まで、東京慈恵会医科大学附属病院小児科病棟にボランティアを週1回派遣し、入院児を対象に遊びや学習支援活動を行っています。

本年度は、小児科プレイルームでの遊びの支援が主な活動となりました。また、活動を行う上での注意事項、知識や情報交換を目的としたミーティングを6回(隔月)、外部から講師を招いての研修会を2回(6月、8月)に開催するとともに、活動報告として「たんぽぽ新聞」を4回発行しました。同院のボランティアコーディネーターと積極的な連携を図るとともに、同院ボランティア組織「スマイルボランティア-JIKEI」の調整会議にも参加しました。

### (2) ボランティアコーディネーター

当会事業推進のために、本部事務所(東京)と大阪事務所で延べ423名からボランティア協力をいただきました。また事務所外におきましても、キャンプ、病院派遣、イベント、自宅作業、全国の支部活動等で多数の個人、団体の方からご協力をいただきました。

当会にてボランティアとして登録されている方には、ボランティア研修会を実施し、事業内容やボランティアとしての心構えなどへの理解を深めていただきました。

## 11 調査研究協力

### ■調査研究委託

2016年度の当会への調査研究に関連する協力の依頼は2件あり、調査研究委員長の承認を得て関係者へ協力を呼びかけました。

研究名称	協力内容
「がん治療後に子どもを持つ可能性を残す 思春期・若年成人がん患者に対するがん生殖医療に要する時間および経済的負担に関する実態調査」 若年性乳がんサポートコミュニティ Pink Ring 代表 御船 美絵	対象者：がん種問わず、がん診断時に生殖能力を有した現在満20歳～満50歳の男女 方法：webによる無記名アンケート調査の実施について、ブログや親の会・経験者の会を通して周知
「患者の医療機関選択に資する制度に関する研究」 全日本病院協会 永井 庸次	対象者：小児がんで治療経験のある患者家族 方法：郵送によるアンケート調査約50名

### ■研究協力

2016年度は下記研究に携わりました。

研究名称	協力内容
「総合的なAYA (Adolescent and Young Adult) 世代のがん対策のあり方に関する研究」 堀部 敬三 (国立病院機構名古屋医療センター 小児科)	委託研究
「初発の頭蓋内原発胚細胞腫に対する放射線・化学療法第Ⅱ層臨床試験」 松谷 雅生 (埼玉医科大学国際医療センター 脳・脊髄腫瘍科)	実行委員会委員

## 12 2016年度年次大会開催

2016年6月12日、飯田橋レインボービル(東京都新宿区)にて「小児がん経験者の就労を考える」をテーマに年次大会を開催しました。今年度は、全体会に並行して保育特別企画として、「株式会社スタイリングライフ・ホールディングス」さんのご協力をいただきステッカーアート体験教室を行いました。なお、年次大会の概要は下表の通りです。

後援：厚生労働省、特定非営利活動法人日本小児血液・がん学会、公益社団法人日本小児科学会、特定非営利活動法人日本小児外科学会、特定非営利活動法人日本小児がん看護学会、特定非営利活動法人日本医療政策機構、公益財団法人日本小児がん協会、一般社団法人日本難病・疾病団体協議会、認定特定非営利活動法人難病の子ども支援全国ネットワーク

全体会	分科会
理事長挨拶 活動報告 シンポジウム 「小児がん経験者の就労を考える」 司会 高橋 都 (国立がん研究センターがん対策情報センター がんサバイバーシップ支援部) 近藤 博子 (当会副理事長) シンポジスト 土屋 雅子 (国立がん研究センターがん対策情報センター がんサバイバーシップ支援部) 近藤 明美 (近藤社会保険労務士事務所 特定社会保険労務士/キャリアコンサルタント) 中島 正敏 (東京労働局 職業対策課 障害者雇用対策係) 林 三枝 (当会会員/認定NPO法人ハートリンクワーキングプロジェクト) 結城 周平 (当会会員/小児がん経験者)	第1分科会 個別医療相談 第2分科会 子どもを亡くした両親のために(当事者のみ) 第3分科会 就労 第4分科会 小児がん経験者 第5分科会 きょうだい 第6分科会 社会活動

## 13 企業・団体からのご協力(敬称略・順不同)

### ■物品寄付

アフラック広報部、AIG 富士生命保険株式会社、アメリカンホーム保険会社、株式会社大和証券グループ本社、JXホールディングス株式会社、子供地球基金、株式会社スタイリングライフ・ホールディングスプラザスタイルカンパニー、一般社団法人霞会館、株式会社ガイア、第一生命労働組合、毎日新聞(事業本部)、大同生命保険株式会社(渋谷支社第2営業課)、アフラック東京コールセンター、アフラック秋田県アソシエイツ会、生命保険文化センター、アフラックアソシエイツ会近畿ブロック、アフラック近畿総合支社、アフラック大阪総合支社、アフラック近畿事務部、アフラック近畿法人アソシエイツ会、アフラック愛知総合アソシエイツ会、アフラック奈良県アソシエイツ会、アフラック青森県アソシエイツ会、アフラックサービスショップ持田店、アフラック保険サービス株式会社、有限会社フロムジャパン、株式会社保険オフィスさとう、株式会社第一総合企画、

株式会社新旭サービス、安心FPパートナー株式会社、バトンズ基金、株式会社KANSOH、募集代理店荒井 芳子、第一三共ヘルスケア株式会社マーケティング部、第一生命保険株式会社大阪市本町事業所、第一生命保険株式会社(関西総局FPコンサルティング部)、第一生命保険株式会社保険金部 大阪保険サービス部、第一生命保険株式会社団体保障事業部、第一生命保険情報システム株式会社事務サービス部、日本物産株式会社DL営業本部、CFJ合同会社、加藤活文堂、ローソン浜寺石津西4丁目店、読売アクト大阪、BXあいわ株式会社、南都銀行新大阪支店、国際保険株式会社



# 寄付・募金者一覧

(2016年4月1日～2017年3月31日)

## ご招待

アフラック (アメリカンファミリー生命保険会社)、東芝メディカルシステムズ株式会社、一般社団法人日本メイスン財団、柏レイソル、毎日新聞社、川島成道音楽事務所、ひとつの会、Fortune KK、栗山巧 (埼玉西武ライオンズ)、アンダーズ東京、がんの子どもを守る会を応援する会、野尻多佳子、久光重貴 (一般社団法人 Ring Smile) 他

## 募金活動、他ボランティア活動

明治安田生命保険相互会社 (営業人事部)、ライフテクノロジーズジャパン株式会社、吉田デザイン事務所、株式会社なゆた、ラルフローレン、門田かず子 (ラ・ヴィータアンサンブル)、第一生命保険株式会社大阪市本町事業所、和宗総本山四天王寺、神戸フィルハーモニック、アフラック近畿法人アソシエイツ会、アフラック大阪総合支社アソシエイツ会、トライム、社会福祉法人成晃会神戸海岸特養ケアセンター、鹿島建設大阪重粒子線施設職長会 GANS、南都銀行新大阪支店、アフラック滋賀支社アソシエイツ会、アフラック西日本保険金部、アフラック宮崎県アソシエイツ会、保険の窓口グループ株式会社、ザ・リッツカールトンホテル大阪、バイエル薬品株式会社、CFJ 合同会社

～その他、支部においてもたくさんの企業・団体さまからご支援いただきました～

## 寄付者一覧

※敬称略

AGC マイクロガラス株式会社	飯塚 敦夫	今村 章子	岡 稜真
CBC 株式会社	五百川 麻子	井村 律子	岡崎 昌世
Harvey Paul A.S.	五十嵐 央	池田 恭子	小笠原 富士子
ICAP 東短証券株式会社	池田 恭子	池田 小児科	医療法人 三幸会 小澤診療所
Jason Rutherford	池田 つたえ	池田 正己	医療法人 幸善会 前田病院
JFE 商事株式会社	池田 正己	池田自動車	岩川 順一
JFE スチール株式会社	池田自動車	石井 榮一	岩倉 良昭
JIM-NET	K&K Creative	石井 さゆり	岩越 祥晃
K&K Creative	Kenedy John	石井 隆	岩佐 敏秋
MSD 株式会社	MSD 株式会社	石上 久美	岩瀬 孝志
NEC ファシリティアーズ株式会社	NEC ファシリティアーズ株式会社	石川 孝成	岩田 敬治
NPO 法人 酒は未来を救う会	NPO 法人 酒は未来を救う会	石田 泰教	岩田 吉郎
NPO 法人 目黒ユネスコ協会	NPO 法人 目黒ユネスコ協会	石橋 一郎	岩谷産業株式会社
SOMPO ちきゅう倶楽部	SOMPO ちきゅう倶楽部	石橋 赳志	ウィリアムス 美樹
Story of the tortoise 株式会社	Story of the tortoise 株式会社	石橋 朋子	上島 亮
YIU TAN DANNY	YIU TAN DANNY	石橋 裕史	ウェスプ ベーター
相川 勝	相川 勝	石橋 幹生	植村 卓夫
相澤 魁人	相澤 魁人	石橋 美知恵	潮田農園
相澤 万亀子	相澤 万亀子	石橋 美奈子	内田 淳次
相沢 満世	相沢 満世	石橋 裕子	内田 裕之
愛知製鋼株式会社	愛知製鋼株式会社	石原 節子	内田 道治
相原 大和	相原 大和	石原 貴泰	海のそばのカフェ bliss point
相部 則博	相部 則博	泉 由幸	梅田 竜嗣
青木 千賀	青木 千賀	いすみ . アイ . ファミリー株式会社	江口 真由美
青木 嘉仁	青木 嘉仁	磯部 直美	江崎 澄子
青柳 亜希	青柳 亜希	井田 正美	榎本 泰基
秋田 由紀美	秋田 由紀美	板垣 松平	榎本 武
秋本 俊治	秋本 俊治	市川 瑞穂	延 浩子
秋山 恵子	秋山 恵子	一瀬 すみ	遠藤 明
秋山 就一郎	秋山 就一郎	一般財団法人 医療情報健康財団	近江 和夫
赫多 久美子	赫多 久美子	一般財団法人 日本メイスン財団	大植 孝治
浅岡 恵美	浅岡 恵美	一般財団法人 凸版印刷三幸会	大浦 幸子
浅田 和子	浅田 和子	一般財団法人 緑風会	大江 登美子
浅野 通直	浅野 通直	一般社団法人 信託協会	大木 綱雄
アサヒグループホールディングス株式会社	アサヒグループホールディングス株式会社	一般社団法人 全国銀行協会	大久保 茜
浅見 美紀	浅見 美紀	一般社団法人 Ring Smile	大久保 一恵
芦垣 悦子	芦垣 悦子	一般社団法人 アーツブレッド	大久保 照子
安達 貴裕	安達 貴裕	一般社団法人 サイボウ・チャリティ・フォーラム	大久保 俊樹
足立 佳子	足立 佳子	一般社団法人 生命保険協会	大久保 柳華
熱田 純	熱田 純	一般社団法人 日本CL建設的な生き方学会	大蔵 隆彦
アフラック 横浜支社	アフラック 横浜支社	一般社団法人 日本ガス協会	大倉 良子
アフラック三重県アソシエイツ会	アフラック三重県アソシエイツ会	一般社団法人 日本建設業連合会	大越 幸司
阿部 行	阿部 行	一般社団法人 不動産協会	大阪重粒子線がん治療施設 職長会
安部 敏治	安部 敏治	伊藤 菊子	大澤 加名子
アボットジャパン株式会社	アボットジャパン株式会社	伊藤 進一	大島 日和
天野 功二	天野 功二	伊藤 智恵子	大島 泰子
天野 慎介	天野 慎介	伊藤 直美	大須賀 ひさ子
アムンディ・ジャパン株式会社	アムンディ・ジャパン株式会社	伊藤 尚子	太田 為治
新井 正男	新井 正男	伊藤 由希	太田 浩史
新井 隆一	新井 隆一	伊藤忠商事株式会社	大津 真由美
荒木 真悟	荒木 真悟	稲垣 たまえ	大塚 聡美
安斎 紀	安斎 紀	稲田 浩子	大坪 哲郎
安藤 なおゆき	安藤 なおゆき	稲畑産業株式会社	大坪 哲郎
安藤 頼枝	安藤 頼枝	井上 健治	大西 娃子
李 オル	李 オル	井上 年容	大場 和代
李 ミリ	李 ミリ	井上 雅美	大場 幸夫
伊井 弘子	伊井 弘子	伊野波 盛郁	大原小児がん基金
飯尾 俊政	飯尾 俊政	伊野波 盛俊	大引 啓次
飯田 宏美	飯田 宏美	今井 公一	大見 サキエ
飯田 雅史	飯田 雅史	今井 正	大森 真理子
			大森 玲子
			大和久 和江



株式会社 ファンケル 株式会社 悠香 株式会社 Agent 株式会社 BAN style 株式会社 Fortune KK 株式会社 KANSOH 株式会社 MARRON MARRON 株式会社 OKAZAKI 株式会社 WORLD G8 株式会社 アイシナ 片岡 由紀子 株式会社北井興業 株式会社 キャンパスサポート西南 株式会社 クリニカル・トリアル 株式会社 グローウィング 株式会社 神戸製鋼所 株式会社 材料屋 株式会社 三平商会 株式会社 サンボウ ホテル ベラヴィータ 株式会社 シミス・ビルライフアス・BLC関西支社 株式会社 ジャパンマネージメント 株式会社 ソシア 株式会社 高橋組 株式会社 たかやま 株式会社 デンソー 株式会社 なゆた 株式会社 日幸金属工業所 株式会社 日誠トラスト 株式会社 日本製鋼所 株式会社 ニヤクコーポレーション 株式会社 パークゴルフコンサルタント 株式会社 ビーエル 株式会社 日立ハイテクノロジーズ 株式会社 ファンコミュニケーションズ 株式会社 フィールドアーカイブ 株式会社 プラスアップ 株式会社 ブラスタウン 株式会社 ブリッジ 株式会社 メディカルプロジェクト 株式会社 ユメテラス 株式会社 淀川製鋼所 株式会社 ルージュ 上玉利 彰 菅森 好美 軽部 裕美子 河合 淳子 川口 弘二 川俣 光子 河原 範子 神田 陽子 漢那 美紀子 菅野 草介 がんの子どもを守る会を応援するコンサート実行委員会 神原 真美 神部 俊平 岸田 恭二 岸野 直樹 岸本 新平 喜多 幸之助 北原 義明 北村 眞法 北村 卓司 北村 龍彦 北村 基郎 キッコーマン株式会社 木下 成顕 木村 建 木村 吉隆 きもべつ喜らめきの郷 九州大学病院 教龍寺 住職 藤本 龍美	協和発酵キリン株式会社 楠井 晶 工藤 昌平 工藤 朝子 久保 悦子 久保 香 久保木 裕子 久保田 一男 久保田 正敏 クボタ総合保険サービス株式会社 熊谷 則一 熊谷 喜子 熊倉 恭子 隈崎 哲也 熊崎 裕文 熊本歯科衛生士専門学校 栗山 宣夫 クレアゴルフフィールド 黒木 智 黒坂 敬弘 黒田 綾 黒羽 薫 桑原 隆 桑原 浩 原 和希 げんき保育園 小泉 由紀 公益財団法人 原田積善会 神代 薫孝 鴻巣市商工会青年部 興和株式会社 コカ・コーライーストジャパン株式会社 コカ・コーラウエスト株式会社 古賀印刷株式会社 国際ソロプチミスト上越 極壇 亜弓 小国 綾子 小島 昌子 コスミック流通産業株式会社 後藤 雅 小島 福松 小林 明日香 小林 宗一 小林 信子 小林 道夫 小林 美奈子 小原 美江 小松 敏彰 小峰 峰子 小宮 毅 小宮山 めぐみ コリ 都三女 近藤 郁子 近藤 弘司 近藤 恭弘 財津 克典 齊藤 茜 齋藤 聡 齊藤 孝 斎藤 正博 酒井 あゆみ 酒井 信夫 堺 久枝 榊原 義夫 阪口 義禎 坂田 年 酒徳 浩之 阪本 望 篠井 智恵子 世川 裕幸	笹川 泰弘 佐々木 文 佐々木 大輔 佐長 久美子 佐藤 穂恵 佐藤 公則 佐藤 浩樹 佐藤 浩 佐藤 稔 佐藤 義嗣 サノフィ株式会社 佐用 敏彦 澤田 敦子 三頭 功太郎 サントリービレッジサービス株式会社 サンヒル上之山 椎名 滋美 椎名 千秋 椎名 延年 椎野 恵美子 シェイクハンズ！ 塩谷 収子 塩見 志満子 塩見 千代子 志岐 みちか 嶋畑 幸司 四国中央市保健センター 四国フィルハーモニー管弦楽団 静岡県立子ども病院 地域医療連携室 七野 浩之 室内 由香 篠田 章 渋江 美恵子 島田 健司 島田 宣利 島田 陽子 島根県松江保健所有志一同 島野 孝仁 島野 忠之 清水 信 清水 万奈未 清水建設株式会社 志村 朱美 シャイン・オン！キッズ 種ヶ嶋 美香子 荘司 英彦 白井松新薬株式会社 白神 洋子 新谷 葵 仁田原 浩明 榛地 幹雄 新田 美穂 新日鐵住金株式会社 末次 正彦 末永 麻衣 杉立 匡規 杉原 恵子 杉本 澄江 杉本 洋一 杉本 陽子 須甲 亮太 鈴木 亜津子 鈴木 栄二 鈴木 琴音 鈴木 佐代子 鈴木 千穂 鈴木 久夫 鈴木 康子 須々木 由美子 鈴木 淑恵	鈴木 良子 須藤 壯太郎 住友商事株式会社 住友生命保険相互会社 高田中央支店 住友生命保険相互会社 長岡支店 西部 雅 聖路加国際病院ボランティアグループ 関 大輔 関 真幸 関沢 敏美 背戸 武夫 セントバルトリクスファウンデーション 善福 弘美 双日株式会社 早田 由紀音 曾我 高臣 神山 和志 園 克彦 だいき動物病院 高橋 大興物産株式会社 西日本支社 大善家具株式会社 大同特殊鋼株式会社 大理石村・ロックハート城 大和証券株式会社 森田 晴之 多賀 哲男 高尾 健一 高尾 健志 高木 えり絵 高崎一中昭和 57 年卒業生有志一同 高澤 仁司 高瀬 一博 高田 尊信 高田 圭之 高野 和子 高野 二郎 高橋 晶子 高橋 脩 高橋 和子 高橋 セイ子 高橋 正行 高原 康一 高松 英夫 高宮 静男 宝田 知子 武石 香 竹内 あい 竹薫 博一 竹田 かおる 竹部 真那美 竹村 統成 田嶋 千鶴子 田尻 健 田代 美知 田添 俊昭 田中 栄治 田中 淳子 田中 徹 田中 秀子 田中 美雪 田中 恵 田中 雄 田邊 唯実子 谷内 吉楽 谷口 真理子 谷村 秀樹 玉井 宏明 玉川 久子 玉城 妙子 千々松 郁枝 千葉 宙山	中外製薬株式会社 中外製薬労働組合 ぼけっと基金 張 光陽 趙 春峰 蝶理株式会社 築地 7 丁目町会婦人部 継醫院 辻 絵梨子 辻 尚人 辻 龍石 辻井 奈穂 辻井 温子 都筑 益恵 妻鳥 毅史 鶴谷 知枝子 出井 美知子 テツヤ 手納 朋子 東京葛飾東ライオンズクラブ 東芝メディカルシステムズ株式会社 東洋英和女学院小学部母の会 時津 力也 徳重 英登 殿畑 正生 トビー工業株式会社 留田 基生 富目 正實 富山福祉短期大学 豊岡 正仁 豊岡 美智子 豊田 和子 豊田 純子 豊田 桃介 豊田通商株式会社 豊田 竹彦 ドロップスの会 芳賀 優子 内藤 龍平 永 正光 中尾 憲治 中川 美知子 中川 美和 中込 悦雄 長崎県県民保健所 中澤 幸子 中島 功博 中島 久仁子 中島 久子 長瀬 洋子 長瀬産業株式会社 仲田 圭介 中田 誠一郎 中田 政和 中田 由夫 中野 小百合 中野 佑真 中野 洋子 長畠 恵美子 中林 里花 中村 和彦 中村 良樹 中村 玲子 仲本 千佳子 成岡 千絵 成澤 ともえ 成田 幸子 成田 隆澄 名和 久子 南部 昌弘 新村 昌弘 西井 一博	西岡 裕美 ニシジマ チカ 西野 由佳 西濱 亮介 西村 浩志 西本 真由美 日新製鋼株式会社 日鉄住金物産株式会社 二宮 和也 日本医科大学千葉北総病院 日本製紙連合会 日本生命保険相互会社 浦河営業部 日本生命保険相互会社 岡山支店 日本生命保険相互会社 熊本支店 日本生命保険相互会社 倉敷シテイ営業部 日本生命保険相互会社 甲府支店 日本生命保険相互会社 西大寺営業部 日本生命保険相互会社 静内営業部本室 日本生命保険相互会社 仙台青葉営業部 日本生命保険相互会社 伊達営業部 日本生命保険相互会社 鶴ヶ谷営業部 日本生命保険相互会社 鳥取支店 日本生命保険相互会社 苫小牧営業部 日本生命保険相互会社 苫小牧中央営業部 日本生命保険相互会社 富川内設支所 日本生命保険相互会社 那珂川営業部 日本生命保険相互会社 登戸営業部 日本生命保険相互会社 函館支店 日本生命保険相互会社 町田支店 日本生命保険相互会社 室蘭営業部 日本生命保険相互会社 ライフプラザ苫小牧 日本生命保険相互会社 岡山支店 日本生命保険相互会社 倉敷シテイ営業部 日本生命保険相互会社 仙台北支店 大原営業部 日本生命保険相互会社 生駒営業部 日本チャールス・リバー株式会社 日本労働組合総連合会 丹羽 喜久夫 認定NPO法人ゴールドリボン・ネットワーク 認定特定非営利活動法人 木の会 認定特定非営利活動法人 ファミリーハウス 根本 尚子 根本 芳広 野口 智子 野口 泰昭 野島 尚恵 野中 淳代 野々村 かおり ノバルティス ファーマ株式会社 野村 千鶴 野村 敏之 野村 朋子 野村 信幸 萩原 明子 橋口 正子 橋都 浩平 橋爪 直美 馬上 星一 長谷川 淳 長谷川 至代 長谷川 伸布子 長谷部 成美 秦 重美 畑 保衣 はたみや すずむ 濱 克彦 濱田 巖右 濱田 諭奈 濱田 奈穂 濱田 裕子	浜谷 秀孝 浜本 和子 早川 晶 早川 英子 早川 秀夫 早川 穰 林 晃子 林 佳奈子 林 修治 林 聖子 林 正治郎 林 志郎 林 澄江 林 雅彦 葉山 麻衣 速水 節子 原田 智絵 原田 望美 阪本 哲男 阪和興業株式会社 東新川 美智子 東山内科・小児科 樋口 明子 樋口 清江 樋口 隆純 久和 勲司 ひなた鍼灸接骨院 火ノ川 好信 檜山 英三 平井 博夫 平澤 和美 平田 洋子 平山 貴也 平山 忠之 ファイザー株式会社 ファリーダ・ラーマン ファンケルグループ もっと何かできるはず基金 深澤 重幸 深津 廣子 深野 興作 深谷 恭子 吹田 健吾 福井 千恵美 福島 猛 福島 桃子 福田 博 福田 佳子 福地 誠一郎 福吉 幸子 藤崎 あつみ 藤澤 初江 藤澤 義之 藤田 昶子 藤田 美子 富士電機株式会社 藤富 桂子 藤原建装株式会社 藤平 一雄 藤本 たか子 藤本 敏彦 藤山 優子 二井 立恵 フリースクールオンリーワン 古嶋 禎子 古本 恵子 プレミアムオイル 普連土学園 宗教委員会 別所 文雄 ベルテック トレーディング株式会社 細井 廣一	細井 創 細川 陽一 細川真珠株式会社 細田 裕美 細谷 名津子 細谷 亮太 ほのぼのサロン 堀川 恵利子 堀川 哲男 堀口 悦子 毎日新聞東京社会事業団 前田 美穂 前田 美和 眞尾 貴年 榎 富貴子 正木 春菜 増倉 育子 増田 勝治 又川 日実子 町田 淳 町田 清子 松井 秀文 松川 節子 松阪 直美 松崎 まり子 松澤 克子 松下 さよ子 松嶋 史絵 松田 アコ 松田 俊彦 松田 信夫 松永 久美江 松永 憲一郎 松原 倫子 松原 善明 松本 敬子 松本 千賀子 松本 美奈 松本 由樹子 丸紅株式会社 丸山 香枝 三浦 厚子 見尾 光庸 三川 勝夫 ミサワホーム東海株式会社 水江 伸夫 水柿 多香子 水代 富雄 三井生命保険株式会社 高崎営業部 三井造船株式会社 三井物産株式会社 三橋 治美 三菱商事株式会社 三菱電機株式会社 三谷 知子 三原 淳志 宮城 智央 宮城県民共済生活協同組合 三宅 隆則 宮崎県高鍋保健所 宮澤 敦子 宮田 淳子 宮田 衛 宮の台幼稚園バザー委員会 宮部 恵 深山 和裕 向井 香奈 向井 直子 村上 恵里佳 村上 笑子
--	--	--	---	---	--	---	--

村上 智是 村松 毅 村山 美津江 明治安田生命保険相互会社 営業人事部 目黒 正彦 茂木 浩一 木曜会(久留米大学病院小児科血液グループ親の会) 茂木 恭子 元田 雅弘 本山 寛 森 恵子 森 雅嗣 守口 久美子 森田 栄子 もりの木こどもクリニック 森原 めぐみ 守山 理衣 守山内科・小児科 門田 かず子 安島 亀也 柳澤 隆昭 山内 順子 山内 正成 山雄 美智代	八巻 恭治 山岸 宏美 山口 佳子 山口 千夏 山口 利子 山崎 文之 山下 公輔 やましろ小児科 山城 武夫 山田 勝三 山田 清人 山田 崇雄 山田 博之 山田 容子 山室 達夫 山本 章子 山本 暁彦 山本 勝利 山本 公司 山本 千春 山本 智子 山本 信江 山本 晴基 山本 道明 山陸 康博	有限会社 築地にしん太助 有限会社 日東電設 有限会社 松田興業 有限会社 吉半 有限会社 アトリエ・デ・くつきいず 有限会社 エイシン工芸 有限会社 大瀧設備事務所 有限会社 キャピタル 有限会社 トム 有限会社 山川土地建物 有限会社 ライフクロカワ 有限責任事業組合 チャイルドケア研究所 ゆうた 弓削 佳央 由良 秀之 横上 菜月 横瀬 兼二 横浜冷凍株式会社 横幕 航平 吉井 智美 吉岡 佑樹 吉川 隆 吉川 禮子 吉崎 利徳	吉澤 裕之 吉住 珠江 吉田 章子 吉田 邦子 吉野 さなえ 吉原 大輔 義村 みつ 吉本 哲也 吉本 泰隆 依田 千恵美 米倉 雅子 米原 チドリ 米山 望 ライフテクノロジーズジャパン株式会社 ラッセル・インベストメント株式会社 レンシン製薬株式会社 ローソン浜寺石津西4丁店 ロート製薬株式会社 かるがも基金 若杉 和枝 ワタキューセイモア株式会社 渡部 眞澄 渡辺 美佐子
---	--	--	---

上記の他、アフラック（アメリカンファミリー生命保険会社）、アフラック販売代理店及び社員の皆様には、キッズサポートを通じてペアレンツハウス、ならびに小児がん経験者・がん遺児奨学金制度の運営をはじめとした当会の活動に数多くのご寄付（1,581件）をいただきました。

匿名ご希望の方からも多数ご寄付をいただいております。

## 募金者一覧

※敬称略

A.FAMILY株式会社 AIG 富士生命保険株式会社 CLUB66 代表 斉藤 和巳 SORA USHIO 炙り屋 用賀店 薨 大原小児がん基金 おぼんざい処 嘉づき 鹿島建設株式会社 関西支社 神奈川県立こども病院 金澤 ともか 株式会社 Fortune KK 株式会社 WORLD G8 株式会社 エイト 西荻勝手口ひまり屋	株式会社 サンボウ 大理石村・ロックハート城 株式会社 プレミアバンク 関西学院高等部吹奏楽部 がんの子どもを守る会を応援するコンサート実行委員会 吉祥寺 ひまり屋 銀座 いちべえ 荻窪店 がんの子どもを守る会を応援する会 神戸フィルハーモニック 小林 花卉 酒は未来を救う会 島田樟誠高等学校 生徒会 社規福祉法人 成見会 神戸海岸特養ケアセンター セ' シュエット 聖路加小児医療センター 聖路加メサイア	ソフトバンク株式会社 第一生命保険株式会社 大阪市本町事業所 第一生命労働組合 首都圏営業本部コンサルティング営業室 千葉県船橋東高校第22期野球部一同 築地 DINNING 金のうなぎ 上野毛店 敦賀市立看護大学ボランティアサークル トライム 中田中央歯科医院 日本労働組合総連合会 ノーベルファーマ株式会社 碑文谷サレジオ教会 青年会 碑文谷サレジオ教会 中高生会 フィンランドのお話と音楽を聴く会 富国生命保険(株) 京浜支社 川崎東営業所 勝連 しの 北京 高棚店	本馬医院 明治安田生命保険相互会社労働組合 丸の内支部 ヤフー株式会社 有限会社 築地にしん太助 有限会社 興水酒店 有限会社 酒ハウス ヤマヤ 有限会社 ミートステーション レスリーチャンバースデー募金 レモネードスタンド in ぶくおか ローソン浜寺石津西4丁店 渡邊 健太郎 渡邊 直美
---	--	--	---

他、多くの方からご支援をいただきました。ありがとうございました。

※当会では寄付金について以下の通り取り扱っております。

- 寄付：特定の個人や法人から集まった募金
- 募金：不特定多数の方からの支援金（募金箱やイベント会場など）

## 公益財団法人がんの子どもを守る会2016年度事業報告書

2016年4月1日～2017年3月31日

2017年6月7日 発行

公益財団法人がんの子どもを守る会

〒111-0053 東京都台東区浅草橋1-3-12  
TEL03-5825-6311(代表)